3-073-379-**01**(2)

CD/DVD プレーヤー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DVP-NS515

© 2002 Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6 ～ 8 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
3 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や 1 年に 1 度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

➡

❶ **電源を切る**

❷ **電源プラグをコンセントから抜く**

❸ **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

指挟み

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。その場合は離して使用してください。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。

設置場所を変えるときは

ディスクを入れたまま、本機を動かさないでください。
ディスクを入れたまま動かすと、ディスクを傷めることがあります。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約 30 分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。
もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

クリーニングディスクについて

市販のレンズ用のクリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

CD/DVD プレーヤーは、コンセントの近くでお使いください。本機をご使用中、不具合が生じた時はすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

残像現象（画像の焼きつき）のご注意

ディスクのメニューや本機のメニュー画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビでは残像現象（画像の焼きつき）が起こりやすいのでご注意ください。

目次

警告・注意

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

警告

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

禁止

➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

本機は国内専用です

交流 100V の電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。

また、コンセントの定格を越えて使用しないでください。

警告・注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

⚠注意

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

トレイの前に物を置かない

ディスクトレイが開く際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。本体の前に物を置かないでください。

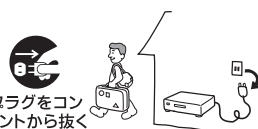
幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

本体内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。

必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

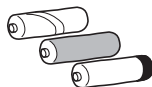
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

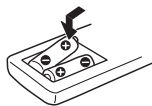
⚠注意

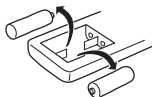
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡ 電池の品番を確かめ、お使いください。

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。リモコンと同じなまえの本体のボタンも同じように使えます。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
DVD	DVD ビデオ /DVD-R/DVD-RW（ビデオモード）で使える機能
VCD	ビデオ CD/ ビデオ CD フォーマットの CD-R/CD-RW で使える機能
DATA-CD	CD-ROM/CD-R/CD-RW の MP3* 音声で使える機能
CD	音楽用 CD/ 音楽用 CD フォーマットの CD-R/CD-RW で使える機能

* MPEG 1 Audio Layer 3：MPEG によって規定された音声のデジタル圧縮規格のひとつ。

再生できるディスクについて

ディスクの種類	
DVD ビデオ（69 ページ）	DVD VIDEO
ビデオ CD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO
音楽用 CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO

“ DVD VIDEO ” のロゴは商標です。

地域番号（リージョンコード）について

著作権保護を目的に設けられた制度です。DVD ビデオのパッケージには販売地域によって、地域番号が表示されています。地域番号に「ALL」または「2」が含まれているときは、本機で再生可能です。

再生できないディスクについて

本機では次のディスクなどを再生することはできません。

- CD-ROM（フォト CD を含む）/CD-R/CD-RW
  ただし、以下のフォーマットで記録したディスクは再生できます。
  -音楽用フォーマット
  -ビデオ CD フォーマット
  -ISO9660* レベル 1/ レベル 2/Joliet 準拠の MP3
- CD-EXTRA のデータ部分
- DVD-RW（VR モード）
- DVD-ROM
- DVD オーディオ
- スーパーオーディオ CD の HD（ハイデンシティ）レイヤー

* 国際標準化機構（ISO）が制定した CD-ROM の論理フォーマット。

次のようなディスクも再生できません。

- 本機では再生できない地域番号（リージョンコード）の DVD
- NTSC 以外のカラーテレビ方式（PAL、SECAM）対応のディスク
  （本機が NTSC カラーテレビ方式対応のため）
- 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型など）をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした痕のあるディスク

➡ 次のページへつづく

ご注意

CD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW(ビデオモード)再生時のご注意

CD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW（ビデオモード）ドライブで記録されたディスクには、傷や汚れ、また記録状態が原因で再生できないものがあります。全ての記録終了時に終了情報を記録するファイナライズ作業をしていないディスクは再生できません。詳しくは、レコーダーの取扱説明書をお読みください。
パケットライト方式で作成されたディスクは再生できません。

DVD、ビデオ CD 再生操作について

DVD、ビデオ CD はソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

著作権について

本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社およびその他の著作権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用およびその他の一部の観賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。

ディスクの取り扱い上のご注意

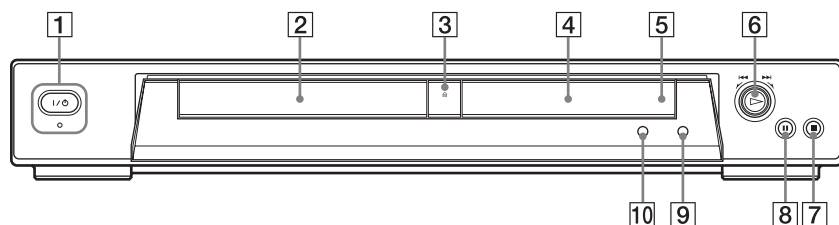
- 再生面に手を触れないように持ちます。

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。
- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- 柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で拭いた後、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。

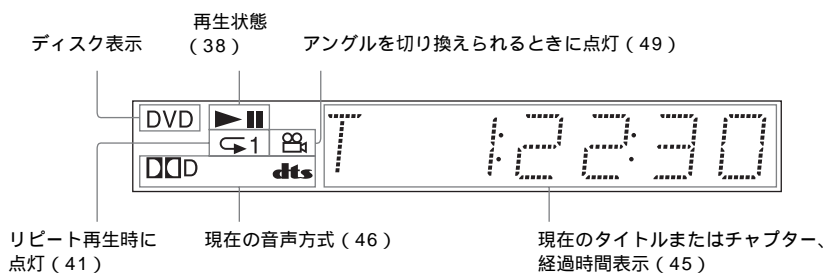
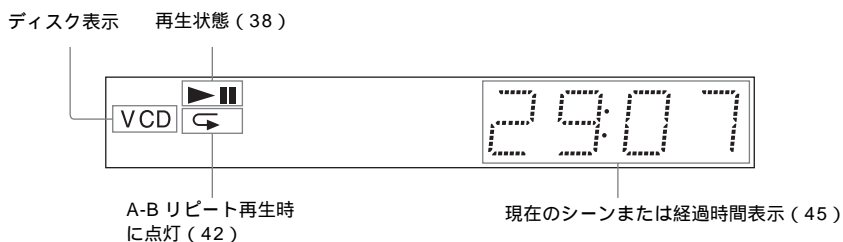
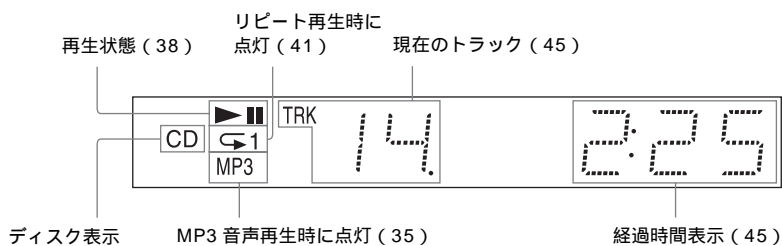
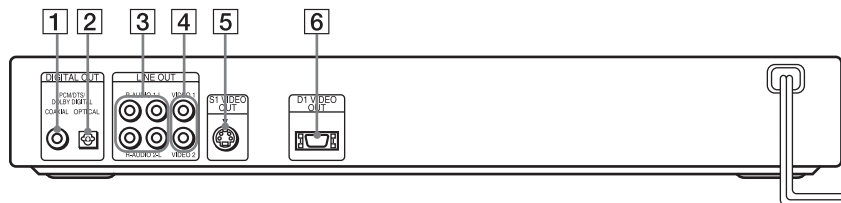
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

各部のなまえ

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

本体前面

1. I/⏻（電源）ボタン / ランプ（30）
   電源が入っているときは緑に点灯し、スタンバイモード（待機状態）のときは赤く点灯します。
2. ディスクトレイ（30）
3. ⏏（開 / 閉）ボタン（30）
4. 表示窓（12）
5. Ⓡ（リモコン受光部）（17）
6. 再生ダイヤル（31）（32）
7. ■（停止）ボタン（31）
8. ❚❚（一時停止）ボタン（31）
9. SURROUND ボタン（47）
10. PICTURE MODE ボタン（51）

本体の表示窓

DVD 再生中

ビデオ CD の PBC（Playback Control）再生中（34）

CD/ データ CD（MP3 音声）再生中 / ビデオ CD 再生中（PBC 以外）

本体裏面

1 DIGITAL OUT COAXIAL（音声デジタル出力（同軸））端子（24）（25）（26）

2 DIGITAL OUT OPTICAL（音声デジタル出力（光））端子（24）（25）（26）

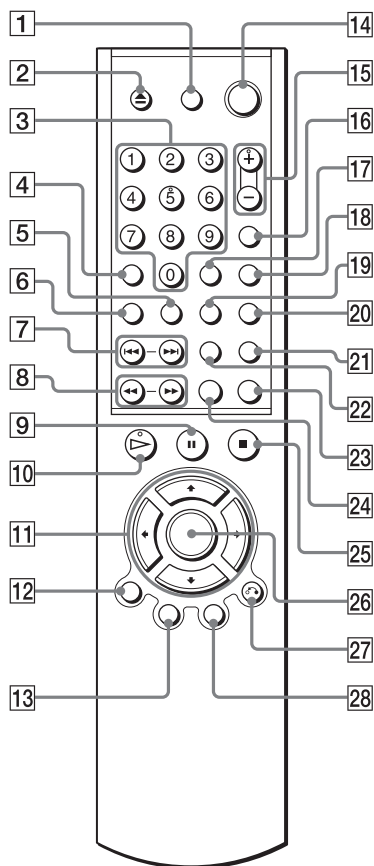
3 LINE OUT AUDIO L/R（1、2）（音声出力）端子（18）（23）（24）（25）

4 LINE OUT VIDEO（1、2）（映像出力）端子（18）（20）

5 S1 VIDEO OUT（S1 映像出力）端子（20）

6 D1 VIDEO OUT（D1 映像出力）端子（20）

➡ 次のページへつづく

リモコン

1 テレビ電源ボタン（57）
2 ⏏ 開 / 閉ボタン（31）
3 数字ボタン*（34）
4 クリアボタン（38）
5 字幕ボタン（49）
6 音声ボタン（46）
7 ⏮ 前 / ⏭ 次ボタン（31）
8 ◀▮ ◀◀/▶▶ ▮▶ スキャン/スローボタン（32）
9 ▮▮ 一時停止ボタン（31）
10 ▷ 再生ボタン*（30）
11 ←/↑/↓/→ ボタン（34）
12 画面表示ボタン（15）
13 トップメニューボタン（34）
14 電源ボタン（30）
15 音量 +/– ボタン*（57）
16 入力切換ボタン（57）
17 決定ボタン（26 と同じ働きをします）
18 お好み画質ボタン（51）
19 アングルボタン（49）
20 サラウンドボタン（47）
21 時間 / テキストボタン（44）
22 くり返しボタン（41）
23 リプレイボタン（31）
24 サーチモードボタン（43）
25 ■ 停止ボタン（31）
26 決定ボタン（27）
27 ↶ リターンボタン（34）
28 メニューボタン（34）

* 凸点（突起）が付いています（数字ボタンは「5」のみ、音量ボタンは「+」のみ）。操作の目印としてお使いください。

画面の見かた

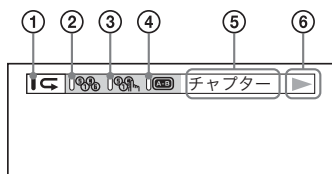
（コントロールバー）

ここでは、本機で使用するコントロールバーについて説明します。コントロールバーは、いろいろな再生機能を使うときや本機の設定をするときに表示します。再生中の音声や映像の情報を見ることもできます。表示される画面は再生するディスクによって異なることがあります。
詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

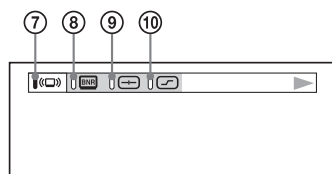
コントロールバー（ディスク再生時）

再生中に画面表示ボタンを繰り返し押すと、次のように画面が切り換わります。
再生中の項目に合った設定を選んだり、状態を確認することができます。

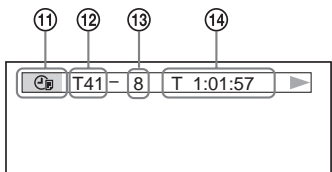
◆画面 1

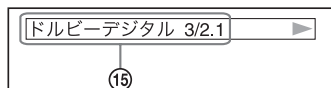
①～④の再生モードを設定できます。設定すると青に点灯します。
例）リピート再生時（A-B リピート再生を設定した時、表示される画面は異なります。）

① リピート再生（41）
② シャッフル再生（40）
③ プログラム再生（38）
④ A-B リピート再生（42）
⑤ この例で現在選んでいる項目や単位
⑥ 再生状態（► 再生、❚❚ 一時停止、■ 停止など）

◆画面 2

⑦～⑩の機能を設定できます。設定すると青に点灯します。
例）TVS 設定時

⑦ TVS（47）
⑧ BNR（50）
⑨ お好み画質モード（51）
⑩ デジタルビデオエンハンサー（52）

◆画面 3

再生中の情報を見ることができます。
例）DVD 再生時

⑪ 時間 / テキストのアイコン
⑫ タイトル番号（43）
⑬ チャプター番号（44）
⑭ 経過時間または残り時間（44）

◆画面 4（DVD 再生時のみ表示）

⑮ 再生中の音声の記録方式（46）

◆表示なし

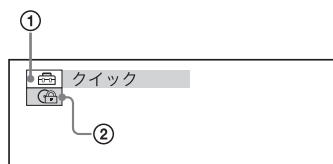
◆画面 1 に戻る

➡ 次のページへつづく

コントロールバー（停止時）

停止中に画面表示ボタンを繰り返し押すと、次のように画面が切り換わります。
基本的な設定やお好みに合わせて本機を調整することができます。

◆画面 1

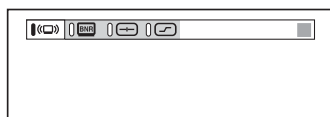
本機の設定ができます。

① 設定（58）
- クイック設定をする（基本的な設定）
- カスタム設定をする（画質や音声などさまざまな設定）
- 設定をお買い上げ時に戻す

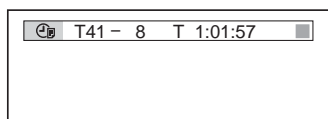
② 視聴制限（53）
- 本機で特定のディスクを再生できないようにする

◆画面 2

ディスク再生時の画面 1 と同じ画面が表示されます。

◆画面 3

ディスク再生時の画面 2 と同じ画面が表示されます。

◆画面 4

ディスク再生時の画面 3 と同じ画面が表示されます。

◆表示なし

◆画面 1 に戻る

はじめに

ここでは、テレビにつないでディスクを再生するまでの、最低限必要な接続や設定、操作について説明します。本機の性能を充分にお楽しみになるには「接続と準備」（20 ページ）以降をご覧ください。

ご注意

- 映像入力端子のないテレビに接続することはできません。
- コンセントから本機および接続する機器のプラグを抜いてから接続してください。

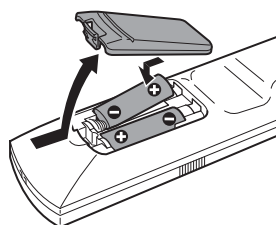
手順 1：付属品を確認する

次の付属品がそろっているかを確認してください。

- 映像音声コード（ピンプラグ× 3 ⟷ ピンプラグ× 3）（1）
- リモコン（1）
- 単 3 形乾電池（R6）（2）
- ソニーご相談窓口のご案内 （1）
- 保証書 （1）

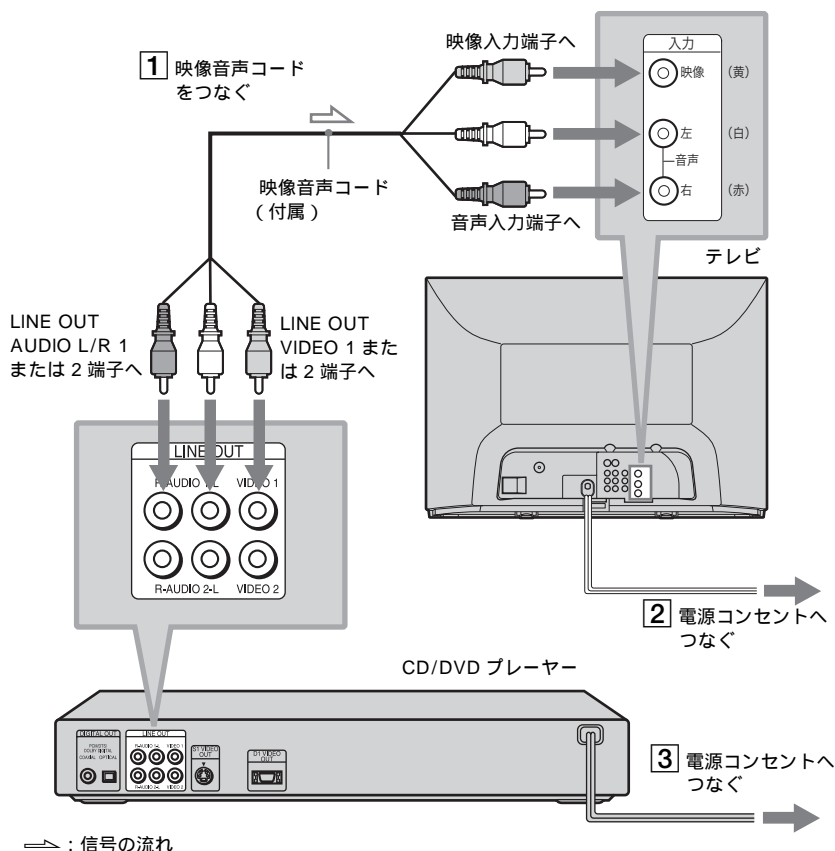
付属品がそろっていないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

手順 2：リモコンに電池を入れる

⊕ と ⊖ の向きをリモコンの表示に合わせて、単 3 形乾電池（R6、付属）2 個を入れてください。
本機を操作するときは、本機のリモコン受光部 Ⓡ にリモコンを向けて操作してください。

ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。
  次のことを必ず守ってください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部 Ⓡ に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

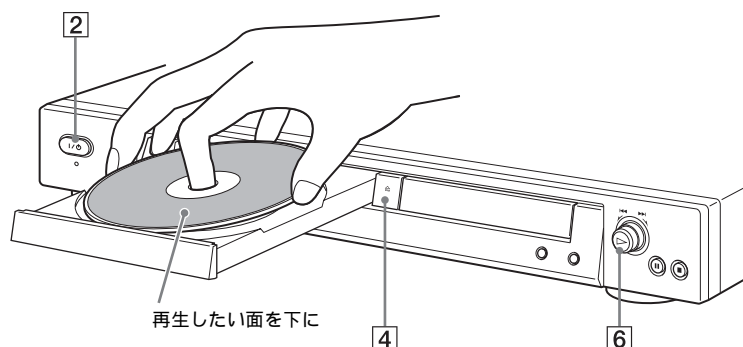
手順 3：テレビとつなぐ

1 ～ 3 の順で、付属の映像音声コードや電源コードをつなぎます。電源コードは最後につないでください。

従来の 4:3 画面テレビとつなぐとき

再生するディスクによっては、画像がご希望の形に表示されないことがあります。表示画像を切り換えるには 60 ページをご覧ください。

ヒント

モノラルテレビと接続するときは、別売りのステレオ・モノラル変換コードを使います。本機の LINE OUT VIDEO 1 または 2 端子とテレビの映像入力端子をつなぎ、本機の LINE OUT AUDIO L/R 1 または 2 端子とテレビの音声入力端子をつなぎます。

手順 4：ディスクを再生する

1 **テレビの電源を入れる。**

2 **I/⏻（電源）ボタンを押す。**

3 **本機の画像が映るように、テレビの入力を切り換える。**

4 **本体の⏏を押してディスクトレイを開ける。**

5 **ディスクを置く。**
再生したい面を下にして置きます。

6 **▷ を押す。**
ディスクトレイが閉まり、再生が始まります。

手順 6 の後に

ディスクによっては、テレビ画面にメニューが表示されることがあります。そのときは表示されたメニュー画面（選択画面）にしたがって、操作をして再生します。DVD（34 ページ）ビデオ CD（34 ページ）

再生を止めるには

■ を押します。

ディスクを取り出すには

⏏ を押します。

電源を切るには

電源ボタンを押します。本機はスタンバイモードになり、I/⏻ ランプが赤く点灯します。

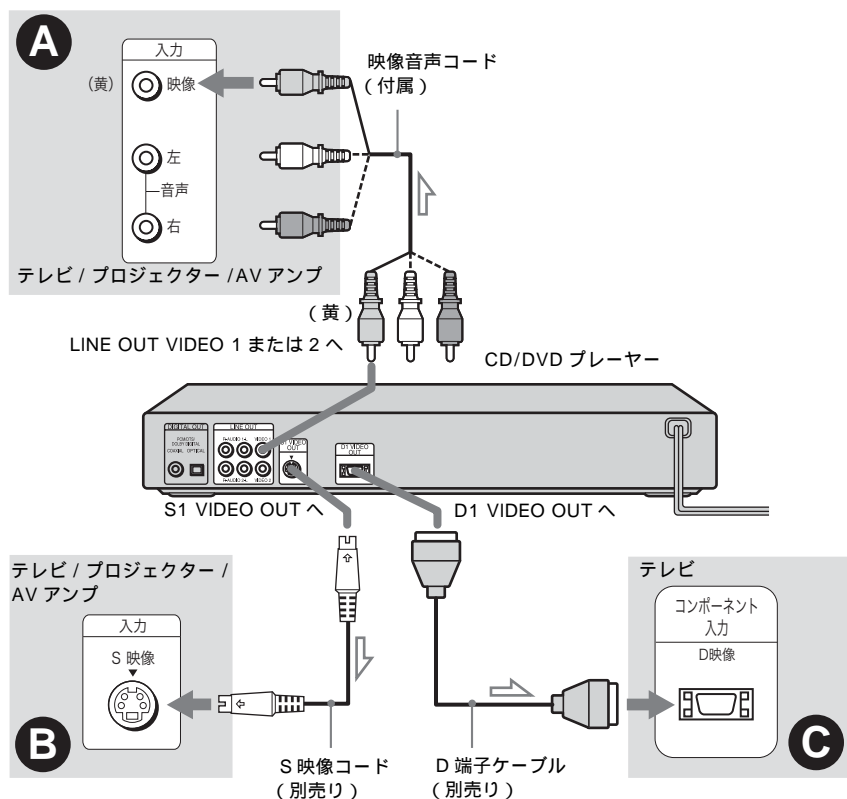
接続と準備について

手順 **1** 〜 **4** に従って、接続とクイック設定をします。
機器の電源は、接続する前に必ず切ってください。また、付属品を確認し、リモコンに電池を入れておきます（17 ページ）。

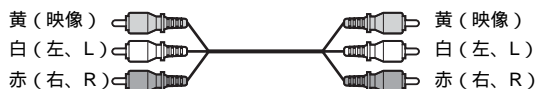
ご注意

- ノイズや雑音の原因となるのでプラグは端子にしっかりと差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

手順 1：映像コードをつなぐ

CD/DVD プレーヤーとテレビやモニター、プロジェクター、AV アンプなどを映像コードでつなぎます。お手持ちの機器の入力端子によって、Ⓐ 〜 Ⓒ の 3 種類のつなぎかたから 1 つ選んで、接続します。

：信号の流れ

Ⓐ 映像入力端子のある機器とつなぐ

映像音声コード（付属）の黄プラグを、黄（映像）端子につなぎます。標準的な映像が楽しめます。

赤プラグと白プラグは音声入力端子とつなぐとき（23 ページ）に使います（テレビのみとつないで映像を出力する場合）。

Ⓑ S 映像入力端子のある機器とつなぐ

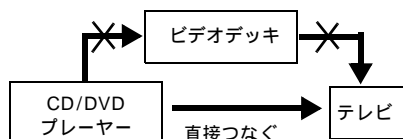
S 映像コード（別売り）を使ってつなぎます。よりきれいな映像が楽しめます。

Ⓒ D 映像入力端子のあるテレビとつなぐ

D 端子ケーブル（別売り）を使ってつなぎます。ケーブル 1 本で簡単にコンポーネント映像で接続でき、映像本来の色を忠実に再現します。

音声を出力するには、別に音声コードをつなぎます。

ご注意

本機とビデオデッキを接続しないでください。ビデオデッキを経由して本機の映像をテレビに映すと、画像が乱れることがあります。テレビに映像音声入力端子がひとつしかない場合は、本機をテレビの映像音声入力端子につなぎます。

手順 2：音声コードをつなぐ

お手持ちの機器に応じた接続方法を選んで、音声コードをつないでください。
接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続方法を選ぶ

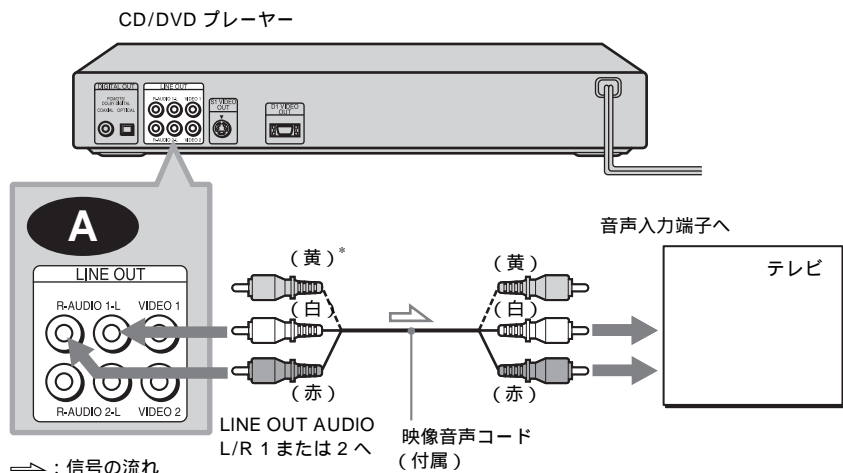
A ～ D のつなぎかたから 1 つを選んでください。

接続する機器	接続
テレビ	A（23 ページ）
ステレオアンプ （音声入力端子が L、R のみ。または、デジタル入力端子付） • 2 台のスピーカー （フロント L、R）	B（24 ページ）
MD デッキ /DAT デッキ	B（24 ページ）
ドルビー * サラウンド（プロロジック）デコーダー付 AV アンプ （音声入力端子が L、R のみ。または、デジタル入力端子付） • 3 台のスピーカー （フロント L、R、リア（モノラル）） • 6 台のスピーカー （フロント L、R、センター、リア L、R、サブウーファー）	C（25 ページ）
ドルビーデジタルまたは DTS デコーダー付 AV アンプ（デジタル入力端子付）** • 6 台のスピーカー （フロント L、R、センター、リア L、R、サブウーファー）	D（26 ページ）

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** DTS および DTS Digital Out は、Digital Theater Systems, Inc. の商標です。

テレビとつなぐ

テレビのスピーカーから音を出すときの接続です。

* 映像音声コードの黄プラグは、映像入力端子とつなぐとき（20 ページ）に使います。

◆この接続でおすすめのサラウンド効果

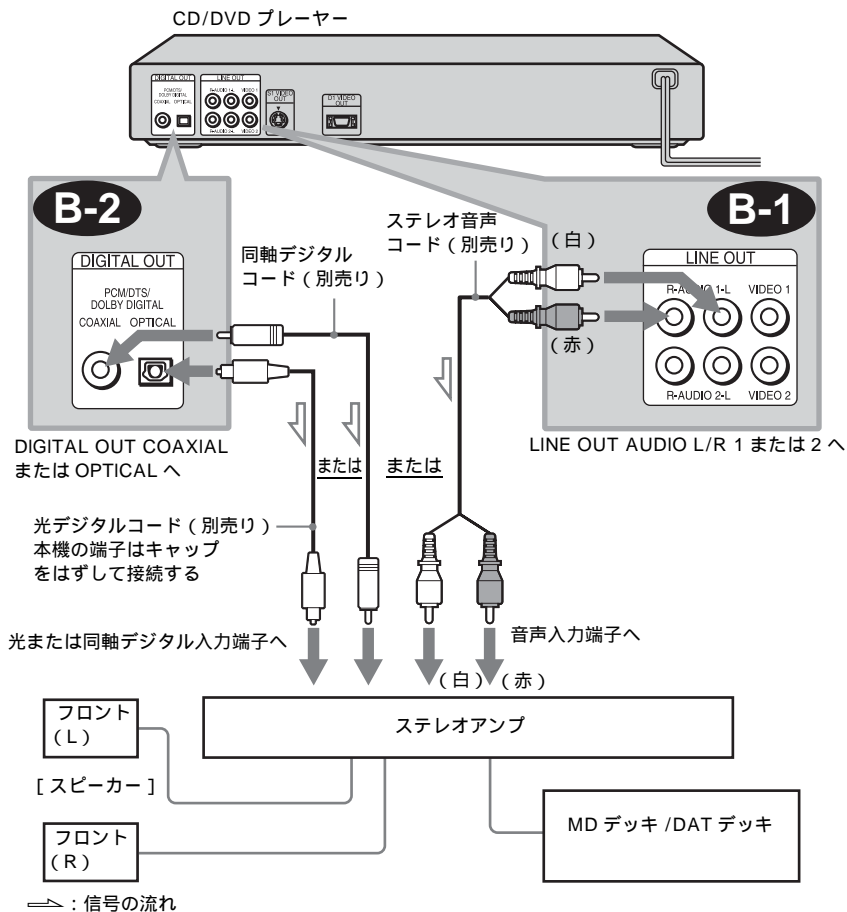
- TVS ダイナミック（47 ページ）
- TVS ワイド（47 ページ）

ヒント

モノラルテレビと接続するときは、別売りのステレオ・モノラル変換コードを使います。本機の LINE OUT AUDIO L/R 1 または 2 端子とテレビの音声入力端子をつなぎます。

➡ 次のページへつづく

B ステレオアンプと 2 台のスピーカーにつなぐ /MD デッキ、DAT デッキとつなぐ

ステレオアンプの音声入力端子が L、R のみのときは B-1 でつなぎます。デジタル入力端子もついているときまたは MD デッキや DAT デッキとつなぐときは B-2 でつなぎます。アンプを経由せず、直接本機と MD デッキや DAT デッキをつなぐこともできます。

◆ B-1 接続でおすすめのサラウンド効果

• TVS スタンダード（48 ページ）

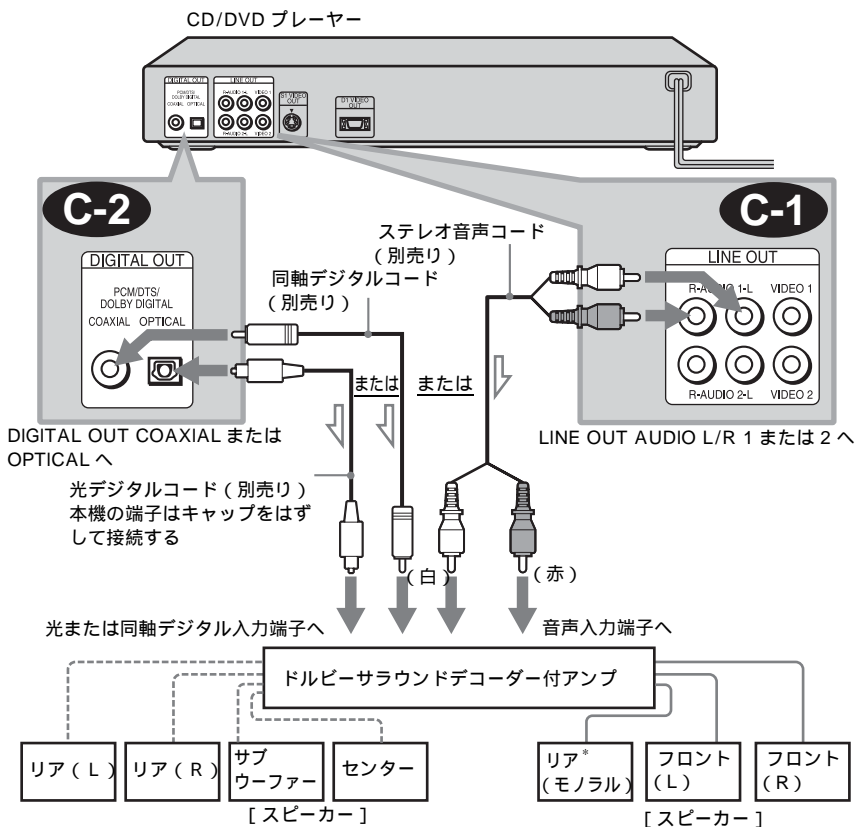
ヒント

B-1 では、音声コードのかわりに、映像音声コード（付属）を使ってつなぐこともできます。

ご注意

B-2 でつないだディスク再生時に「TVS」（47 ページ）を選択すると音が出ません。

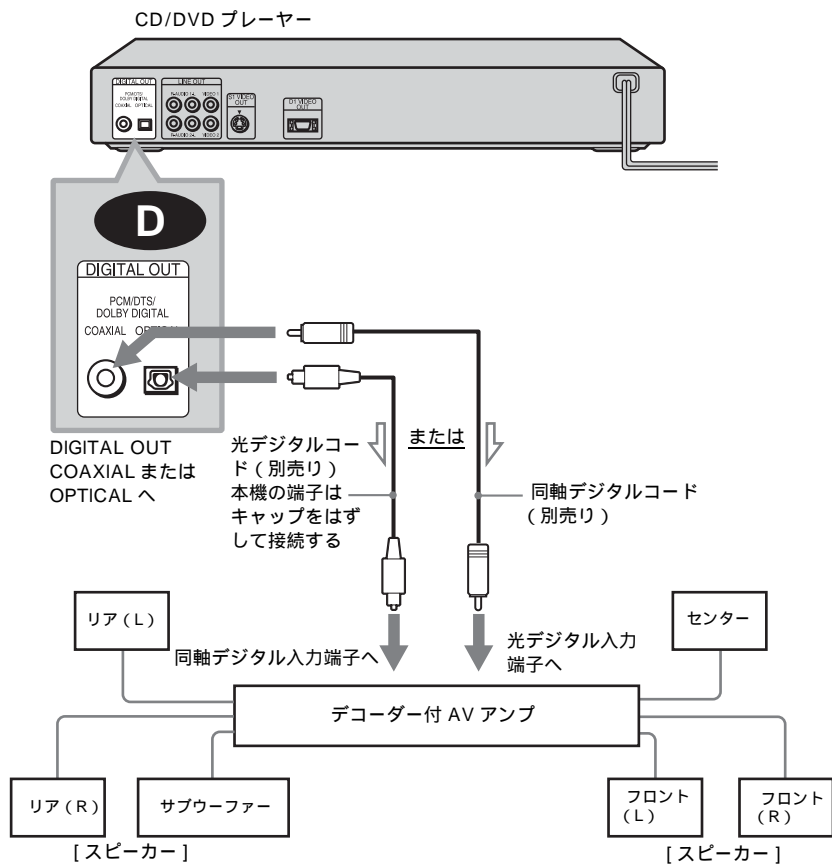
C ドルビーサラウンド（プロロジック）デコーダー付 AV アンプと 3 ～ 6 台のスピーカーにつなぐ

ドルビーサラウンド音声、またはマルチチャンネル音声（ドルビーデジタル）を再生するときに、サラウンド効果が得られます。
アンプの音声入力端子が、L、R のみのときは C-1 でつなぎます。デジタル入力端子がついているときは C-2 でつなぎます。

⇒：信号の流れ

* 6 台のスピーカーをつなぐときは、リア（モノラル）はつなぎません。

➡ 次のページへつづく

D ドルビーデジタルまたは DTS デコーダー付 AV アンプ（デジタル入力端子付）と 6 台のスピーカーにつなぐ

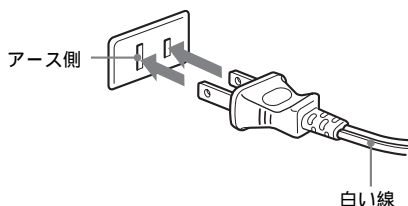
この接続で楽しめるサラウンドは、アンプのドルビーデジタルまたは DTS デコーダー機能を使った音声効果です。
本機のサラウンド効果は、お楽しみいただけません。

ご注意

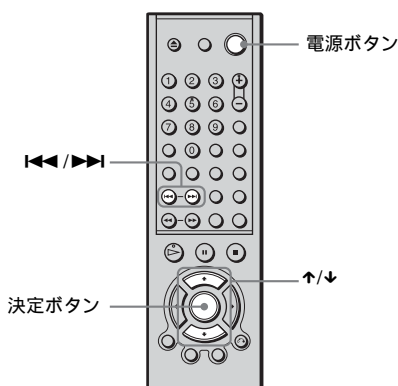
この接続をしたときは、クイック設定で「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に、「DTS」を「入」にします（27 ページ）。
誤って設定すると、スピーカーから音が出なかったり異音が出ることがあります。

手順 3：電源コードをつなぐ

本機およびテレビなどの接続した機器の電源コードを電源コンセントにつなぎます。

電源コードの極性について

各機器の電源コードの極性を合わせて、より良い音質で音楽をお楽しみいただくため、本機の電源コードには白い線が付いています。白い線が入っている側がコンセントの差し込み口の長い方（アース側）にくるように差し込みます。
電源コードはすべての接続が終ってから差し込んでください。

手順 4：クイック設定をする

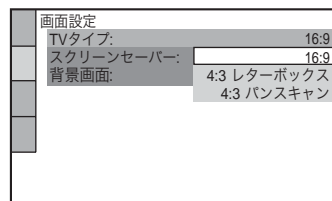
以下の手順に沿って基本の設定をします。
一つの設定をとばして次の設定に進むには、▶▶I を押します。1 つ前の設定に戻るには、I◀◀ を押します。

1 テレビの電源を入れる。

2 電源ボタンを押す。

3 本機の画像が映るように、テレビの入力を切り換える。

画面の下に「クイック設定するには [決定] を押してください」が表示されます。このメッセージが表示されないときは、コントロールバー画面で「設定」の「クイック」を選んで、クイック設定を始めます（58 ページ）。

4 ディスクが入っていない状態で決定ボタンを押す。

接続したテレビの種類を設定する画面が表示されます。

5 ↑/↓で接続したテレビに合った設定を選ぶ。

◆ ワイドテレビまたはワイドモードのある 4：3 画面のテレビと接続したとき

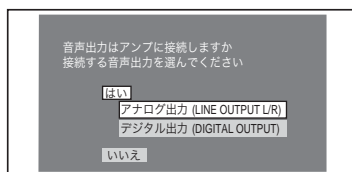
- 「16:9」（60 ページ）

◆ 従来の 4：3 画面のテレビと接続したとき

- 「4:3 レターボックス」または「4:3 パンスキャン」（60 ページ）

➡ 次のページへつづく

6 決定ボタンを押す。

アンプの接続について設定する画面が表示されます。

7 ↑/↓でアンプを使うときの接続端子を選んで決定ボタンを押す。

23 〜 26 ページで選択した音声コードの接続（A〜D）に適した項目を選びます。

A

- 本機をテレビとだけつないでいる場合は「いいえ」を選びます。クイック設定が終了します。接続と設定はこれで完了です。

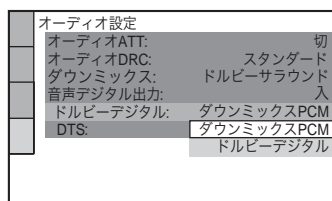
B-1 または C-1

- 「アナログ出力（LINE OUTPUT L/R）」を選びます。クイック設定が終了します。接続と設定はこれで完了です。

B-2 または C-2 または D

- 「デジタル出力（DIGITAL OUTPUT）」を選びます。ドルビーデジタル音声の出力を設定する画面が表示されます。手順 8 に進みます。

8 ↑/↓で接続したアンプへ出力するドルビーデジタル音声信号の種類を選ぶ。

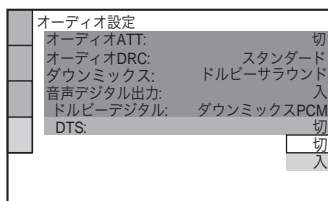
24 〜 26 ページで選択した音声コードの接続（B〜D）に適した信号を選びます。

B-2 または C-2

- 「ダウンミックス PCM」（63 ページ）

D

- 「ドルビーデジタル」（ドルビーデジタルデコーダー付 AV アンプと接続したときのみ）（63 ページ）

9 決定ボタンを押す。

DTS 音声の出力を設定する画面が表示されます。

10 ↑/↓ で接続したアンプへ DTS 音声信号を出力するかどうかを選ぶ。

24 〜 26 ページで選択した音声コードの接続（B〜D）に適した項目を選びます。

B-2 または C-2

- 「切」（63 ページ）

D

- 「入」（DTS デコーダー付 AV アンプと接続したときのみ）（63 ページ）

11 決定ボタンを押す。

クイック設定が終了します。接続と設定はこれで終わりです。

音声効果をより楽しむ

音声効果をより楽しむには、24 〜 26 ページで選択した音声コードの接続（B〜D）にあわせて以下のように設定します。これらはお買い上げ時の設定のため、最初に本機を接続した時に設定を変える必要はありません。
設定の操作については「設定画面を使う」（58 ページ）をご覧ください。

接続（24 〜 26 ページ）

A のとき

- 必要な設定はありません。

B-1 または C-1

- 「ダウンミックス」を「ドルビーサラウンド」に設定する（62 ページ）。

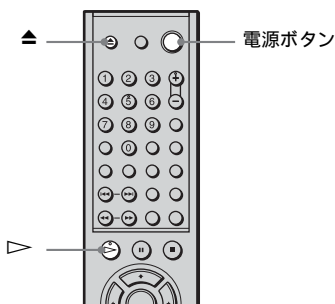
* 音量を下げても音が歪む場合は、「オーディオATT」を「入」にしてください（62 ページ）。

B-2 または C-2 または D のとき

- 「ダウンミックス」を「ドルビーサラウンド」に設定する（62 ページ）。
- 「音声デジタル出力」を「入」に設定する（62 ページ）。

ディスクを再生する

DVD VCD CD DATA-CD

再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。
ディスクによっては、禁止されている操作もあります。

1 テレビの電源を入れる。

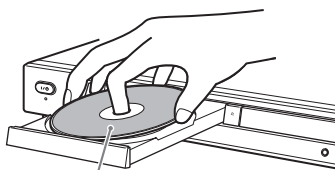
2 電源ボタンを押す。

本機の電源が入り、I/⏻ ランプが緑に点灯します。

3 本機の画像が映るように、テレビの入力を切り換える。

◆ アンプを使うときは

アンプの電源を入れ、本機の音声が出るようにアンプの入力を切り換えます。

4 本体の≜を押してディスクトレイを開けて、ディスクを置く。

5 ▷ を押す。

ディスクトレイが閉まり、再生が始まります。テレビまたはアンプで音量を調整します。
ディスクによっては、テレビ画面にメニューが表示されることがあります。
DVD 再生の場合は 34 ページ、ビデオ CD の場合は 34 ページをご覧ください。

電源を切るには

電源ボタンを押します。本機はスタンバイモード（待機状態）になります。

ヒント

ディスクを再生していないときに 30 分以上本体またはリモコンを操作しなければ、自動的にスタンバイモードになるように設定できます（オートパワーオフ機能）。「視聴設定」の「オートパワーオフ」を「入」に設定してください（61 ページ）。

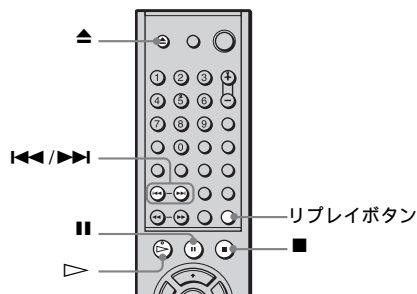
CD の DTS 音声再生時のご注意

- DTS で記録された CD を再生するとアナログ出力からは極端に大きなノイズが出ます。DVD プレーヤーのアナログ出力をアンプにつないでいるときは、お手持ちのシステムが破損しないよう細心の注意を払う必要があります。DTS Digital Surround™ の再生をお楽しみいただくには、DVD プレーヤーのデジタル出力に 5.1 チャンネルの外部 DTS Digital Surround™ デコーダーを接続する必要があります。
- CD の DTS 音声を再生するときは、音声ボタンを繰り返し押して、音声を「ステレオ」に設定してください（46 ページ）。

- DTS デコーダーを内蔵していないオーディオ機器につないでいるときに CD の DTS 音声を再生すると、「オーディオ設定」の「DTS」を「切」に設定していても（63 ページ）DIGITAL OUT OPTICAL および COAXIAL 端子から異音が出ます。

DVD の DTS 音声再生時のご注意

- DTS 音声信号は DIGITAL OUT OPTICAL および COAXIAL 端子からのみ出力されます。
- DVD の DTS 音声を再生するときは、「オーディオ設定」の「DTS」を「入」に設定します（63 ページ）。
- DTS デコーダーを内蔵していないオーディオ機器につないでいるときは、「オーディオ設定」の「DTS」を「入」に設定しないでください（63 ページ）。スピーカーから大きな音が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがあります。

いろいろな操作方法

こんなときは	こうする
止める	■ を押す
途中で止める	II を押す
途中で止めたあと、つづきを再生する	II または ▷ を押す
再生中にチャプターや映像、曲を進める	⏭ を押す。または本機の再生ダイヤルを少しの間右へ回す
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	⏮ を押す。または本機の再生ダイヤルを少しの間左へ回す
ディスクを取り出す	⏏ を押す
少し前の画像に戻る（DVD ビデオのみ）	リプレイボタンを押す

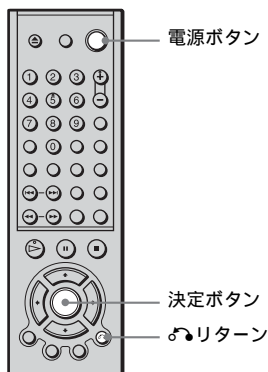
ヒント

リプレイ機能は、セリフを聞き直す時などに使うと便利です。

ご注意

再生場面によっては、リプレイ機能が使えないことがあります。

ディスクトレイをロックする（チャイルドロック）

本体とリモコンの ⏏ ボタンを使えなくすることができます。子供がディスクトレイを誤って開けるのを防ぐときなどに便利です。

スタンバイモード時にリモコンの リターンを押し、続けて決定ボタン、電源ボタンを順に押す。

電源が入り、本体表示窓に「LOCKED」が表示されます。チャイルドロックが働いているときは、本機とリモコンの ⏏ ボタンを使うことができません。

チャイルドロックを解除するには

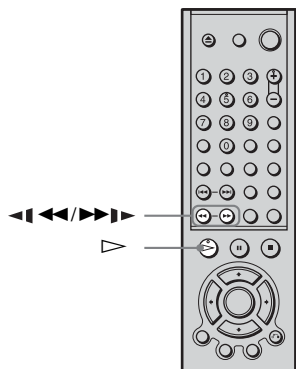
上の操作を繰り返します。

ご注意

コントロールバーの「設定」で「リセット」（59 ページ）を選んでも、この設定は解除されません。

見たいところ、聞きたいところをさがす

（早送り / 早戻し / スロー再生 / コマ送り）

再生しながら早送りや早戻しをして、見たいところや聞きたいところをさがしたり、スロー再生をすることができます。

ご注意

DVD、ビデオ CD によっては操作が禁止されている場合があります。

早送り / 早戻しをして見たいところ、聞きたいところをさがす（スキャン）

DVD VCD CD DATA-CD

再生中に早送りするには ▶▶▮▶を、早戻しをするには ◀▮◀◀ を繰り返し押します。▷ を押すと通常の再生に戻ります。

スキャン中に ◀▮◀◀ または ▶▶▮▶ を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。3 種類の速さを選ぶことができます。

ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

◆再生方向

◆逆方向

×2◀/×2▶ は通常の約 2 倍の速度で再生します。

1◀◀/1▶▶ より、2◀◀/2▶▶ のほうが、高速で再生します。

スロー再生する DVD VCD

この機能は DVD またはビデオ CD のみで使えます。

一時停止中に ◀▮◀◀ または ▶▶▮▶ を押します。▷ を押すと通常の再生に戻ります。

スロー再生中、◀▮◀◀ または ▶▶▮▶ を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。2 種類の速さを選ぶことができます。

ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

◆再生方向

2▮▶ ←→ 1▮▶

◆逆方向（DVD のみ）

2◀▮ ←→ 1◀▮

1▮▶ /1◀▮より 2▮▶ /2◀▮のほうが、低速で再生します。

再生ダイヤルを使ってさがす

DVD VCD CD DATA-CD

再生ダイヤルでディスクの見たいところや聞きたいところをさがすことができます。

次のチャプター / トラック / シーンを頭出しするには

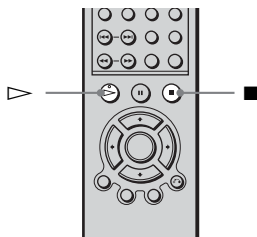
再生中に本体の再生ダイヤルを少しの間右方向に回します。少しの間左方向に回す

と、前のチャプター / トラック / シーンを頭出しします。

早送り / 早戻しをしてさがすには（サーチ）

再生中に早送りするには本体の再生ダイヤルを右方向に回したままに、早戻しするには再生ダイヤルを左方向に回したままにします。再生ダイヤルをはなすと通常の再生に戻ります。

再生を止めたところから再生する（つづき再生機能） DVD VCD CD DATA-CD

再生を止めたあと、そのつづきから再生できます。本機がスタンバイモード（待機状態）になってもつづき再生が働きます。
また、ディスクを取り出しても、6 枚まで停止した場所を記憶し、つづき再生することができます（DVD またはビデオ CD のみ）。7 枚目以降は、1 枚目の停止場所から順に記録を自動的に消去して、新しいディスクの停止場所を記録します。

1 ディスクの再生中、■ を押して、再生を止める。

表示窓に「RESUME」が表示されます。

2 ▷ を押す。

手順 1 で再生を止めたところから、再生が始まります。

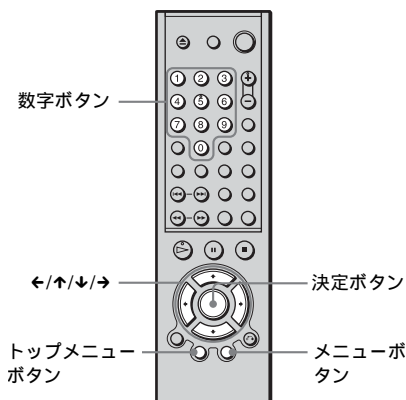
ヒント

ディスクを最初から再生したいときは、■ を 2 回押してから、▷ を押します。

ご注意

- 次の場合、再生を止めたところの記録は消え、つづき再生できません。
  - 再生モードを変えたとき
  - 設定画面で設定を変更したとき
  - ディスクを取り出したとき（CD/ データ CD のみ）
  - コンセントを抜いたとき
  - 本機をスタンバイモードにしたとき（データ CD のみ）
- ディスクによっては、つづき再生ができない場合があります。

DVD のメニューを使う DVD

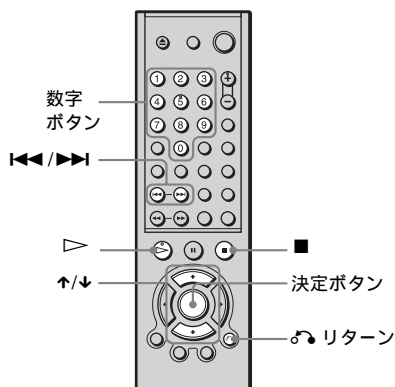
DVD には、DVD 独自のメニューが記録されているものがあります。
複数のタイトル（映像や曲）が記録されている DVD はトップメニューボタンを、ディスクの内容（字幕や音声の言語など）をメニューで選択できる DVD はメニューボタンを使って再生できます。

1 **トップメニューボタンまたはメニューボタンを押す。**
ディスクのメニューが表示されます。メニューの内容はディスクによって異なります。

2 **←/↑/↓/→ または数字ボタンで項目を選ぶ。**

3 **決定ボタンを押す。**

プレイバックコントロール機能を使う

（PBC 再生） VCD

テレビ画面に表示される選択用のメニューにしたがって、再生や検索ができます（Playback Control—PBC 機能）。

1 **PBC 対応ビデオ CD を再生する。**
選択用のメニュー画面が表示されます。

2 **メニュー画面で行いたい（再生したい）項目の番号を ↑/↓ または数字ボタンで選ぶ。**

3 **決定ボタンを押す。**

4 **テレビ画面に表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する。**
操作の方法はディスクによって異なることがあります。ディスク付属の説明書もあわせてご覧ください。

選択用のメニュー画面に戻るには

リターンを押します。

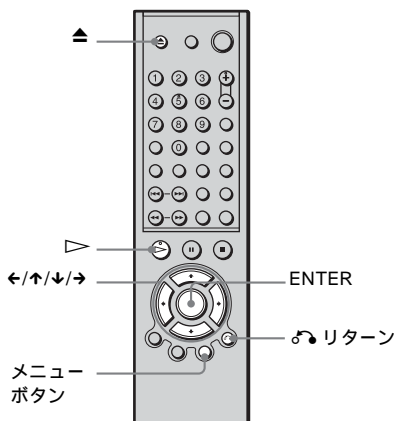
ヒント

PBC 機能を使わないで再生するときは、停止中、⏮や⏭を押して再生したいトラックを選んでから、▷ または決定ボタンを押します。画面上に「PBC を切って再生します」が表示され、通常の再生（トラック番号順に再生）が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。
PBC 再生に戻すには、■ を押して再生を止めたあと、もう 1 度 ■ を押してから ▷ を押して再生を始めます。

ご注意

ディスクによっては手順 3 で決定ボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。そのときは、▷ を押してください。

MP3 音声を再生する DATA-CD

データ CD（CD-ROM、CD-R、CD-RW）に記録されている MP3（MPEG 1 Audio Layer 3）音声を再生できます。

1 ≜を押してディスクトレイを開け、データ CD を置く。

2 ▷ を押す。

ディスクトレイが閉まり、最初のアルバムの最初のトラックが再生がされます。

ご注意

- 本機が対応している MP3 音声のサンプリング周波数は、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz です。
- 編集したときと違う順序で再生されることがあります。詳しくは、下記の「MP3 音声の再生順序」をご覧ください。

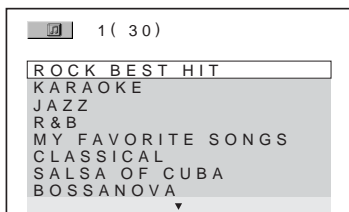
アルバムおよびトラックを選んで再生する

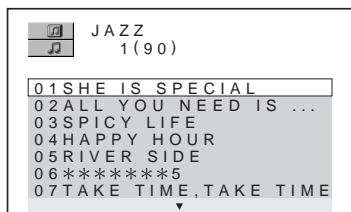
1 メニューボタンを押す。

データ CD に記録されている MP3 音声のアルバムの一覧が表示されます。

➡ 次のページへつづく

1(30)

ROCK BEST HIT
KARAOKE
JAZZ
R&B
MY FAVORITE SONGS
CLASSICAL
SALSA OF CUBA
BOSSANOVA

2 ↑/↓で再生したいアルバムを選び、決定ボタンを押す。

アルバムの中に含まれる、トラックの一覧が表示されます。

3 ↑/↓で再生したいトラックを選び、決定ボタンを押す。

再生が始まります。
再生中のトラック / アルバム名は薄暗く表示されます。

次のページまたは前のページを表示するには

→または←を押します。

1 つ前の画面に戻るには

リターンボタンを押します。

画面表示を消すには

メニューボタンを 1 回押します。

ご注意

- アルバム / トラック名一覧はアルファベットまたは数字のみ表示できます。それ以外の文字は「*」で表示されます。
- 本機は ID3 タグを表示できません。

MP3 音声について

本機は CD-ROM または CD-R/CD-RW ディスク（データ CD）に記録された MP3 音声を再生することができます。
ディスクは ISO9660 のレベル 1/ レベル 2/Joliet 準拠で記録されたものが再生可能です。本機ではマルチセッションで記録したディスクも再生できます。
記録方式について詳しくは CD-R/CD-RW ドライブまたは書き込み用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

マルチセッションディスク再生時のご注意

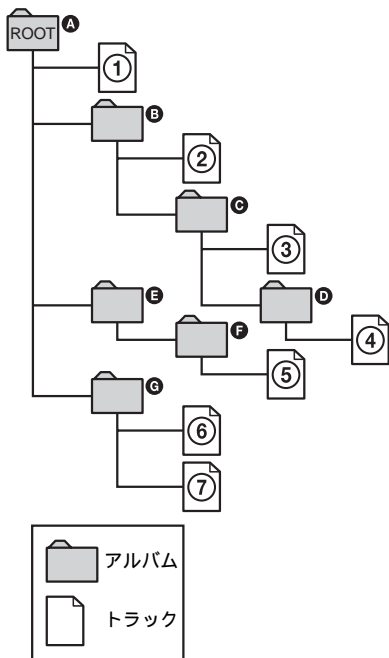
MP3 音声がディスクの最初のセッションに記録されているときは、その他のセッションの MP3 音声も再生します。
音楽用 CD フォーマットまたはビデオ CD フォーマットの音声や画像が最初のセッションに記録されているときは、最初のセッションだけを再生します。

ご注意

- MP3 形式以外のデータに「.MP3」の拡張子をつけると、本機はそれらを再生してしまい、雑音や故障の原因となります。
- 本機は MP3PRO で記録された音声には対応していません。

MP3 音声の再生順序

本機がデータ CD に記録されたアルバムやトラック（MP3 音声）を認識する順序は下図のとおりです。

ディスク内の構造

データ CD を本機に入れて再生ボタンを押すと、①→②→③→④→⑤→⑥→⑦ の順序でトラックを再生します。
アルバムがサブアルバムを含んでいるときは、サブアルバムに含まれるトラックの再生が優先されます。（例：C は D を含んでいるので ⑤ より ④ が優先される）

MENU ボタンを押したときに表示されるアルバム一覧（35 ページ）では、A→B→C→D→F→G の順でアルバム名が並びます。トラックを直下に含まないアルバム（例：E）はアルバム一覧に表示されません。

ヒント

- ディスクにトラックを記録するときは、あらかじめトラック名の頭に数字（01、02、03 など）を入れておくと、その数字の順番に再生することができます。
- 多くの階層を持つディスクは再生を始めるのに時間がかかります。ディスクにアルバムを記録するときは第 2 階層までにすることをお勧めします。

ご注意

- MP3 音声を記録した際の書き込み用ソフトウェアによっては上図の順序で再生されないことがあります。
- ディスクに記録されたアルバムとトラックの合計数が 200 を超える場合は上図の順序で再生されないことがあります。
- ディスクに記録された 100 番目のアルバムまで本機は認識できます（このときの数え方は、MP3 音声を含まないアルバムも数に入れてアルバムのみを数えます）。
それより後のアルバムは本機では再生できません。
また、100 番目までのアルバムのうち、アルバムとその中に含まれるトラックは合計で 200 まで本機で再生できます。

再生モードを使う

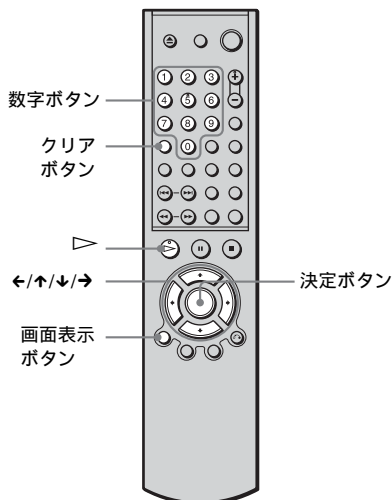
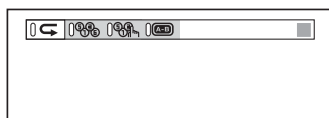
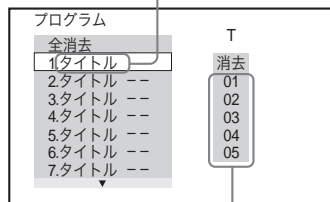
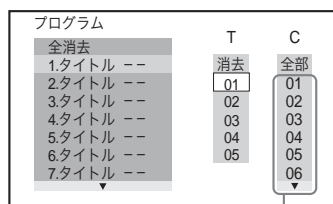
(プログラム / シャッフル / リピート / A-B リピート)

再生モードには次の種類があります。
- プログラム再生（38 ページ）
- シャッフル再生（40 ページ）
- リピート再生（41 ページ）
- A-B リピート再生（42 ページ）

ご注意

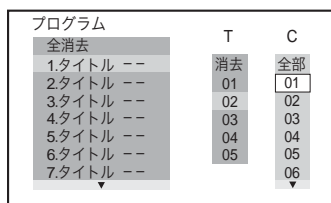
設定した再生モードは、次の場合に解除されます。
ーディスクトレイを開いたとき
ー電源ボタンを押して、本機がスタンバイモード（待機状態）になったとき

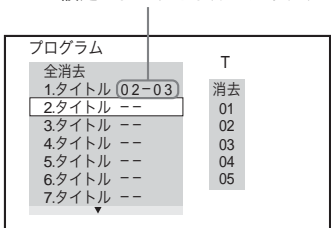
好きな順に再生する（プログラム再生） DVD VCD CD

タイトルやチャプター、トラックを好きな順に再生できます。最大 99 個のタイトルやチャプター、トラックをプログラムできます。

1 停止中に画面表示ボタンを 2 回押す。
画面に以下のコントロールバーが表示されます。

2 ←/→ で （プログラム）を選び、決定ボタンを押す。

3 → を押す。
タイトルまたはトラック（「T」）にハイライトが移ります（この場合「01」）。

4 プログラム再生したいタイトル / チャプターまたはトラックを設定する。

◆ **DVD のとき**

例）タイトル「02」のチャプター「03」を設定する。

↑/↓ または数字ボタンで「T」の「02」を選び、決定ボタンを押します。

次に ↑/↓ または数字ボタンで「C」の「03」を選び、決定ボタンを押します。

設定されたタイトル / チャプター

◆ **ビデオ CD/CD のとき**

例）トラック「02」を設定する。

↑/↓ または数字ボタンで「T」の「02」を選び、決定ボタンを押します。

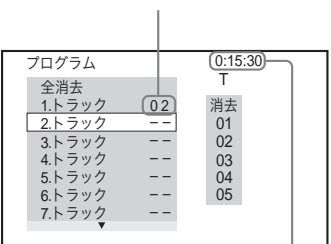
設定されたトラック

プログラムしたトラックの総時間

5 続けて再生するタイトル / チャプター / トラックを設定したいときは、手順 3 〜 4 を繰り返す。

タイトル / チャプター / トラックが選んだ順に表示されます。

6 ▷ を押す。

プログラム再生が始まります。

プログラム再生が終わっても、▷ を押せば同じプログラムを再生します。

プログラム再生を止めるには

クリアボタンを押します。

画面表示を消すには

画面表示が消えるまで、画面表示ボタンを押します。

プログラムの設定を変更または消すには

1. 「好きな順に再生する（プログラム再生)」の手順 1 〜 2 を行う。
2. 手順 3 で、↑/↓ または数字ボタンを使って変更または消したいタイトル、チャプター、トラックのプログラム番号を選び、→ を押す。
3. 手順 4 の操作で新しい設定を入力する。設定したプログラムを取り消したいときは「T」の「消去」を選び、決定ボタンを押す。

設定したプログラムをすべて消すには

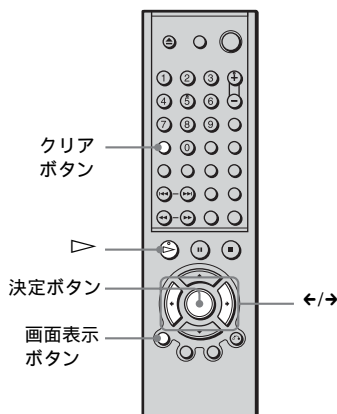
1. 「好きな順に再生する（プログラム再生)」の手順 1 〜 2 を行う。
2. ↑ を押し “ 全消去 ” を選ぶ。
3. 決定ボタンを押す。

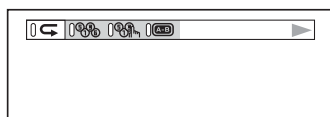
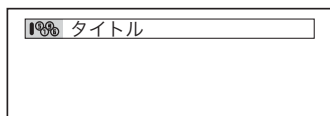
ヒント

設定したプログラムで「リピート再生」（41 ページ）や「シャッフル再生」（40 ページ）もできます。プログラム再生中に「リピート再生」（41 ページ）または「シャッフル再生」（40 ページ）の手順に沿って操作をします。

→ 次のページへつづく

順不同に再生する（シャッフル再生） DVD VCD CD

本機が自動的にタイトルやトラックの順番を選んで、再生します。再生する順番は、シャッフル再生をするたびに変わります。

1 再生中に画面表示ボタンを押す。

画面に以下のコントロールバーが表示されます。

2 ←/→ で （シャッフル）を選び、決定ボタンを繰り返し押して、順不同にして再生する項目を選ぶ。

◆ DVD のとき

- タイトル
- チャプター

◆ ビデオ CD/CD のとき

- トラック

◆ プログラム再生しているとき

- 入：タイトルまたはトラック、チャプターをプログラム番号ごとに順不同にして再生します。

通常の再生に戻すには

手順 2 で「切」を選びます。または、クリアボタンを押します。

コントロールバーを消すには

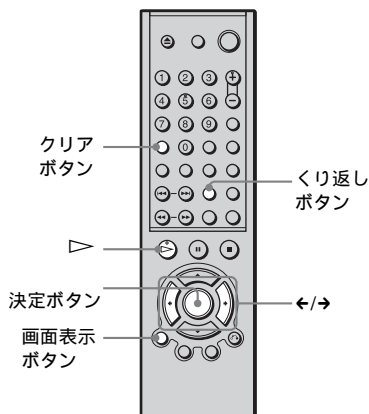
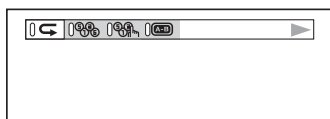
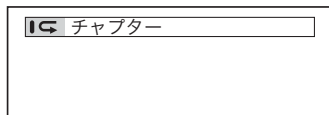
コントロールバーが消えるまで、画面表示ボタンを押します。

ヒント

- 停止中にシャッフル再生を設定できます。シャッフルの項目を選び、▷ を押します。シャッフル再生が始まります。
- 「チャプター」を選んだとき、ディスク中の 200 のチャプターまでシャッフル再生できます。

繰り返し再生する（リピート再生）

DVD VCD CD DATA-CD

ディスクのすべてのタイトルまたはトラック、または 1 つのタイトル / チャプター / トラックを繰り返し再生できます。
シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせて使うこともできます。

1 再生中に画面表示ボタンを押す。
画面に以下のコントロールバーが表示されます。

2 ←/→ で （リピート）を選び、決定ボタンを繰り返し押して、リピート再生する項目を選ぶ。

◆ DVD のとき
- ディスク：すべてのタイトル
- タイトル：再生中のタイトル
- チャプター：再生中のチャプター

◆ ビデオ CD/CD のとき
- ディスク：すべてのトラック
- トラック：再生中のトラック

◆ データ CD（MP3 音声）のとき
- ディスク：すべてのトラック
- アルバム：再生中のアルバム内のすべてのトラック
- トラック：再生中のトラック

◆ プログラム再生 / シャッフル再生をしているとき
- 入：プログラム再生、シャッフル再生をリピート再生します。

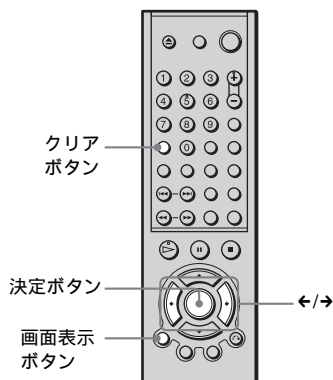
通常の再生に戻すには
手順 2 で「切」を選びます。または、クリアボタンを押します。

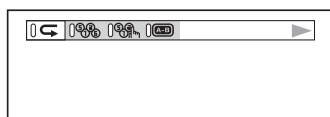
コントロールバーを消すには
コントロールバーが消えるまで、画面表示ボタンを押します。

ヒント
- 停止中にリピート再生を設定できます。リピート再生の項目を選び、▷ を押します。リピート再生が始まります。
- 「リピート」を直接選べます。くり返しボタンを押します。

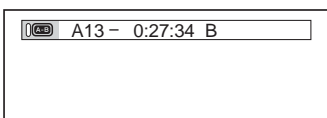
➡ 次のページへつづく

再生したい部分だけを繰り返す（A-B リピート）DVD VCD CD

再生したい部分を 1 か所指定して、繰り返し再生できます。語学学習や歌詞を覚えるときに便利です。

1 再生中に画面表示ボタンを押す。

画面に以下のコントロールバーが表示されます。

2 ←/→ で （A-B リピート）を選ぶ。

3 再生中に繰り返す部分の始点（A 点）で決定ボタンを押す。

始点（A 点）が設定されます。

4 繰り返す部分の終点（B 点）でもう 1 度決定ボタンを押す。

指定した部分が表示され、繰り返して再生されます。

通常の再生に戻すには

クリアボタンを押します。

コントロールバーを消すには

コントロールバーが消えるまで、画面表示ボタンを押します。

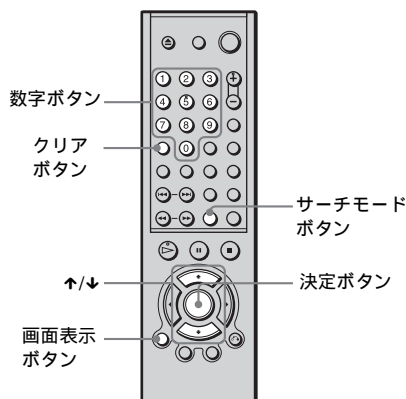
ご注意

A-B リピートを設定すると、シャッフル再生やリピート再生、プログラム再生は解除されます。

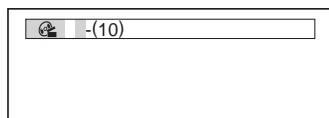
タイトル / チャプター / トラック / インデックス / シーンをさがす

（サーチモード）

DVD VCD CD DATA-CD

DVD のタイトル / チャプター / タイトルの経過時間、ビデオ CD や CD およびデータ CD のトラック / インデックス / シーンで映像や曲を探すことができます。
タイトルやトラックなどには、ディスク上で番号がつけられているので、その番号を選んで頭出しします。また、タイトルの経過時間をタイムコードで入力して場面を探すこともできます。

1 再生中にサーチモードボタンを押す。

以下のように表示されます。
カッコ内の数字はディスクに記録されているタイトルやトラック、シーンなどの総数です。

-(10)

2 サーチモードボタンを繰り返し押して、検索項目を選ぶ。

◆ **DVD のとき**

（タイトル）または （チャプター）、（時間 / テキスト）、
（数字入力）
タイムコードを入力して場面を探すときは、「時間 / テキスト」を選びます。

◆ **ビデオ CD のとき**

（トラック) または
（インデックス）

◆ **ビデオ CDをPBC再生しているとき**

（シーン）

◆ **CD のとき**

（トラック）または
（インデックス）

◆ **データ CD（MP3 音声）のとき**

（アルバム）または
（トラック）

3 ↑/↓または数字ボタンでタイトルやトラック、シーンなどの番号を入力する。

たとえば、タイムコードで始まりから 2 時間 10 分 20 秒過ぎた場面を探すには、手順 2 で「時間 / テキスト」を選んだあと「2:10:20」と入力します。

間違えたときは

クリアボタンを押して、入れなおします。

4 決定ボタンを押す。

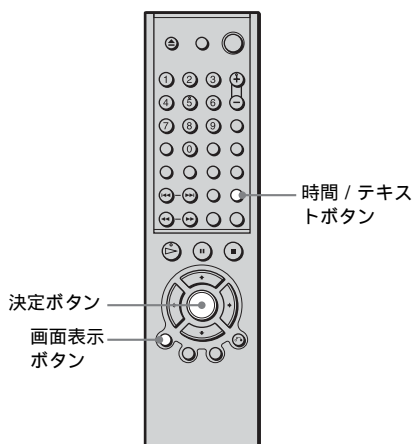
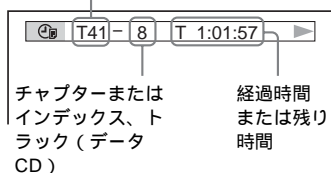
選んだ箇所の再生が始まります。

ヒント

- ディスク再生中に番号を入力する必要がある場合、手順 2 で「数字入力」を選んでください。
- 画面に表示が出ていなくても、数字ボタンと決定ボタンでチャプター（DVD）やトラック（CD）を探すことができます。

経過時間と残り時間を見る

DVD VCD CD DATA-CD

再生中のタイトル、チャプター、トラックの経過時間と残り時間を見ることができます。ディスクに記録された DVD や CD のテキストまたは MP3 音声のトラック名を見ることもできます。

1 再生中に画面表示ボタンを繰り返し押して、（時間 / テキスト）を表示させる。

2 決定ボタンを繰り返し押して、時間表示を切り換える。

表示や切り換えできる時間の種類はディスクによって異なります。

◆ DVD のとき

- T　＊＊：＊＊：＊＊
  タイトルの経過時間
- T －＊＊：＊＊：＊＊
  タイトルの残り時間
- C　＊＊：＊＊：＊＊
  チャプターの経過時間
- C －＊＊：＊＊：＊＊
  チャプターの残り時間

◆ ビデオ CD を PBC 再生しているとき

- ＊＊：＊＊
  シーンの経過時間

◆ ビデオ CD（PBC 再生中以外）/CD のとき

- T　＊＊：＊＊
  トラックの経過時間
- T －＊＊：＊＊
  トラックの残り時間
- D　＊＊：＊＊
  ディスクの経過時間
- D －＊＊：＊＊
  ディスクの残り時間

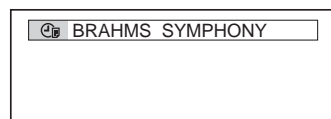
◆ データ CD（MP3 音声）のとき

- ＊＊＊＊：＊＊
  トラックの経過時間

コントロールバーを消すには

コントロールバーが消えるまで、画面表示ボタンを押します。

DVD/CD テキストまたはトラック名（MP3 音声）を見るには

手順 2 で、決定ボタンを繰り返し押します。テキストまたはトラック名がディスクに記録されているときのみ表示されます。記録されていないと「NO TEXT」と表示されます。テキストを変更することはできません。
データ CD の MP3 音声の場合、トラック名のみ表示できます。

表示窓で経過時間と残り時間を見るには

表示窓は画面に連動して以下のように切り換わります。

◆ DVD のとき

◆ビデオ CD（PBC 再生時以外）や CD のとき

◆データ CD（MP3 音声）のとき

再生中のトラックの経過時間

6 2:25

トラック名

01HAPPY

ヒント

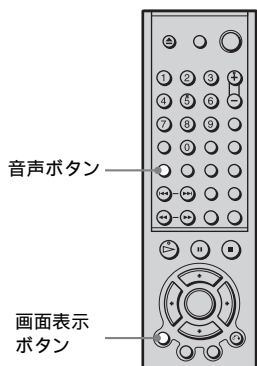
- ビデオ CD で PBC 再生しているときは、シーン番号または経過時間が表示されます。
- 1行で表示しきれないDVD/CDテキストまたはトラック名（MP3 音声）は、表示窓にスクロールして表示されます。
- 「時間 / テキスト」を直接選べます。時間 / テキストボタンを押します。

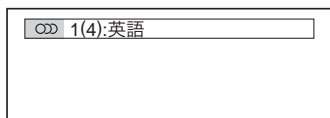
ご注意

- 記録されたディスクによってはテキスト表示できないことがあります。
- 本機は DVD/CD テキストの最初の部分（タイトル名など）のみ表示できます。
- MP3 音声のトラックの経過時間は正確に表示されない場合があります。

音声を切り換える

DVD VCD CD DATA-CD

複数の音声記録方式（ドルビーデジタル、DTS、PCM など）で記録された DVD を再生しているときに、音声記録方式を選ぶことができます。複数の音声の言語が記録された DVD では、言語を選ぶこともできます。
また、CD やデータ CD、ビデオ CD 再生中は、左右どちらかのチャンネルの音を左右両方のスピーカーから出すことができます。カラオケのビデオ CD などで、伴奏だけを聞くこともできます。

1 再生中に音声ボタンを押す。

以下の画面が表示されます。
カッコ内の数字はディスクに記録されている音声の総数です。

2 音声ボタンを繰り返し押して、音声を選ぶ。

◆ DVD のとき

選べる言語は DVD によって異なります。
4 桁の数字が表示されたときは、「言語コード一覧表」（71 ページ）を参照してください。同じ言語が 2 個以上表示されたときは、音声記録方式（チャンネル数など）が異なります。

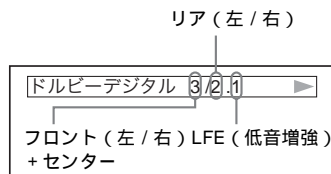
◆ ビデオ CD/CD/ データ CD のとき

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。
- <u>ステレオ</u>：通常のステレオ再生
- 1/L：左チャンネルの音（モノラル）
- 2/R：右チャンネルの音（モノラル）

再生中の音声記録方式を表示する DVD

再生中に画面表示ボタンを繰り返し押すと、現在再生中の音声記録方式が画面上に表示されます（ドルビーデジタル、DTS、PCM など）。

例）

ドルビーデジタル 5.1ch 音声

音声信号について

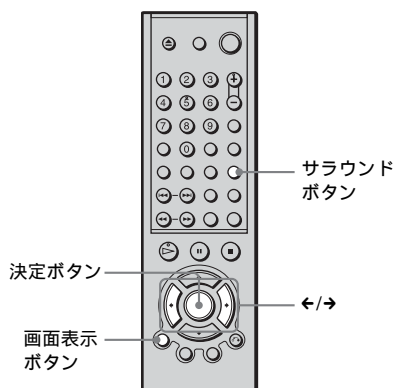
ディスクに録音されている音声信号は以下のような音声成分（チャンネル）で構成されています。各チャンネルは接続されているスピーカーに振り分けられ、出力されます。
- フロント（左）
- フロント（右）
- センター
- リア（左）
- リア（右）
- リア（モノラル）：ドルビーサラウンド処理された信号または、ドルビーデジタル信号のモノラルのリア成分
- LFE（Low Frequency Effect：低音増強）信号

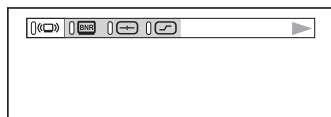
ご注意

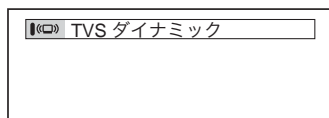
「オーディオ設定」で「DTS」を「切」にしている場合（63 ページ）、ディスクに DTS 信号が含まれていても DTS の表示は出ません。

TV バーチャルサラウンドを楽しむ

（TVS） DVD

2 台のフロントスピーカーのみをつないでいるとき、TVS（TV Virtual Surround）機能を使うと、リアスピーカーがなくても実在するフロントスピーカー（L、R）の音から創られた仮想サラウンドが楽しめます。TVS 機能は、ソニーが開発したステレオテレビ用サラウンド技術です。
LINE OUT AUDIO L/R（1、2）に接続したときにこの機能を使えます。TVS 機能を設定すると、本機の DIGITAL OUT OPTICAL または COAXIAL 端子からドルビーデジタル音声は出力されません（設定画面の「オーディオ設定」で「ドルビーデジタル」を「ダウンミックス PCM」に設定している場合）（63 ページ）。

1 再生中に画面表示ボタンを 2 回押す。

画面に以下のコントロールバーが表示されます。

2 ←/→ で （サラウンド）を選び、決定ボタンを繰り返し押してサラウンド効果を選ぶ。

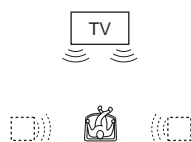
- TVS ダイナミック
- TVS ワイド
- TVS ナイト
- TVS スタンダード

設定を解除するには

手順 2 で「切」を選びます。

コントロールバーを消すには

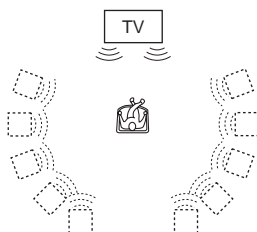
コントロールバーが消えるまで、画面表示ボタンを押します。

◆ TVS ダイナミック

実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、1 組の仮想リアスピーカーを下図のように創り出します。ステレオスピーカー内蔵テレビのように、左右のフロントスピーカーの距離が近いときに効果的です。

◆ TVS ワイド

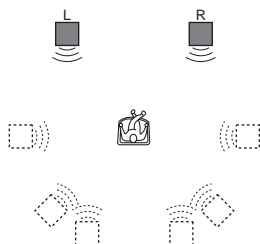
実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、5 組の仮想スピーカーを下図のように創り出します。ステレオスピーカー内蔵テレビのように、左右のフロントスピーカーの距離が近いときに効果的です。

音声を楽しむ

➡ 次のページへつづく

◆ TVS ナイト

低音量でもサラウンド効果を得ることができ、TVS ワイドと同様の仮想スピーカーを創り出します。また、爆発音などの大きな音声が絞られ、セリフなどの小さな音声が聞きとりやすくなります。

◆ TVS スタンダード

実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、3 組の仮想スピーカーを下図のように創り出します。2 台のフロントスピーカーにつないでいるときに効果的です。

L：フロントスピーカー（L）
R：フロントスピーカー（R）
⬚：仮想スピーカー

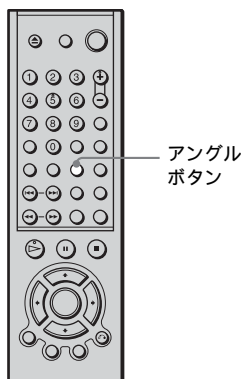
ヒント

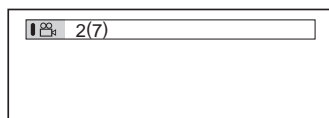
「TVS」を直接選べます。サラウンドボタンまたは本体の SURROUND ボタンを押します。

ご注意

- リア音声が記録されていないディスクの場合、サラウンド効果は得られません。
- サラウンドを設定しているときは、つないでいる機器（アンプなど）のサラウンドの設定は「切」にしてください。
- より高いサラウンドを得るには、スピーカーはリスニングポジションから距離的にも環境的にも左右対称になるように設置します。
- 「TVS ナイト」はドルビーデジタル音声のみ効果があります。効果の度合はディスクによって異なります。
- 「ドルビーデジタル」の設定を「ドルビーデジタル」に、または「DTS」の設定を「入」にした場合、DIGITAL OUT OPTICAL または COAXIAL 端子から音声は出力されますが、TVS 効果はありません。

アングルを切り換える DVD

複数のアングルがディスクに記録されているとき、正面から見た景色を右から見た景色に切り換えるなど、好きなアングルを選ぶことができます。
アングルを変えられるときは、表示窓に「🎥」が点灯します。

1 再生中にアングルボタンを押す。

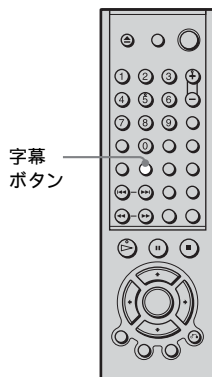
以下の画面が表示されます。
カッコ内の数字はディスクに記録されているアングルの総数です。

2 アングルボタンを繰り返し押して、アングル番号を選ぶ。

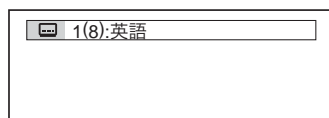
選んだアングルに切り換わります。

ご注意

ディスクによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

字幕を表示する DVD

字幕が記録されているディスクは、再生中に字幕を表示したり切り換えたりできます。語学の学習などに便利です。

1 再生中に字幕ボタンを押す。

以下の画面が表示されます。
カッコ内の数字はディスクに記録されている字幕の総数です。

2 字幕ボタンを繰り返し押して、言語を選ぶ。

選べる言語はディスクによって異なります。
4 桁の数字が表示されたときは、「言語コード一覧表」（71 ページ）を参照してください。

字幕設定を解除するには

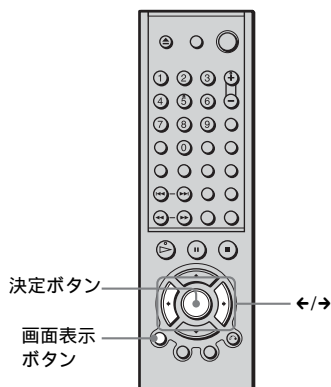
手順 2 で「切」を選びます。

ご注意

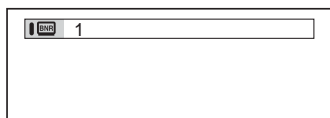
ディスクによっては字幕が記録されていても、字幕を表示したり消したりすることや、切り換えを禁止している場合があります。

画質を改善する

（BNR） DVD VCD

画面上にモザイクのように現れるブロックノイズを低減します（ブロックノイズリダクション－BNR 機能）。

1 再生中に画面表示ボタンを 2 回押す。

画面に以下のコントロールバーが表示されます。

2 ←/→ で （BNR）を選び、決定ボタンを繰り返し押してレベルを選ぶ。

- 1：ブロックノイズを低減します。
- 2：「1」よりもノイズを低減します。
- 3：「2」よりもノイズを低減します。

設定を解除するには

手順 2 で「切」を選びます。

コントロールバーを消すには

コントロールバーが消えるまで、画面表示ボタンを押します。

ご注意

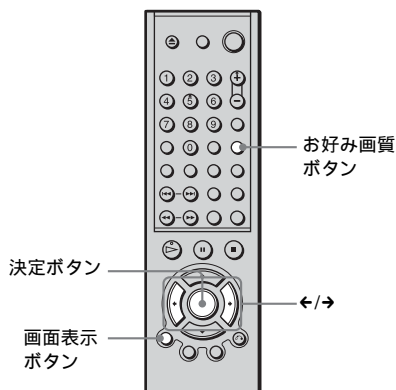
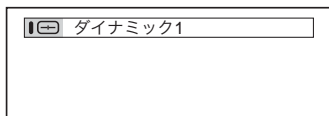
- 画像の輪郭がぼやけるときは「切」を選んでください。
- ディスクの種類や再生している場面によっては、BNR の効果がわかりにくいことがあります。

画質を調整する（お好み画質モード） DVD VCD

本機から出力する DVD やビデオ CD の映像信号を調整し、映像の内容に合わせて画質を設定できます。

1 再生中に画面表示ボタンを 2 回押す。

画面に以下のコントロールバーが表示されます。

2 ←/→ で（お好み画質モード）を選び、決定ボタンを繰り返し押して、画質の設定を選ぶ。

- スタンダード：標準的な画質
- ダイナミック 1：コントラストの強いメリハリのある画質
- ダイナミック 2：ダイナミック 1 よりコントラストの強いメリハリのある画質
- シネマ 1：黒色を強調して暗い部分の詳細を際立たせる
- シネマ 2：白色をより明るく、黒色をより強調して、色あいのコントラストをつける

コントロールバーを消すには

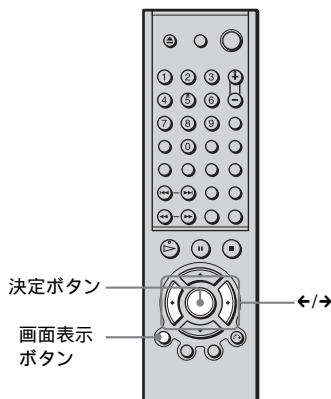
コントロールバーが消えるまで、画面表示ボタンを押します。

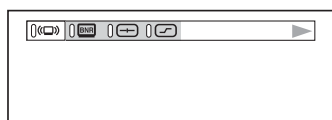
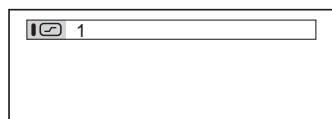
ヒント

- 映画を見るときは、「シネマ 1」または「シネマ 2」をお勧めします。
- 「お好み画質」を直接選ぶことができます。お好み画質ボタンまたは本体の PICTURE MODE ボタンを押します。

映像を楽しむ

映像の輪郭を調整する（デジタルビデオエンハンサー） DVD VCD

画像の輪郭を強調して、画像をより鮮明にはっきり見せたり、逆に輪郭が強調されすぎているノイズ感が強い画像をソフトに見せます。

1 再生中に画面表示ボタンを 2 回押す。

画面に以下のコントロールバーが表示されます。

2 ←/→ で （デジタルビデオエンハンサー）を選び、決定ボタンを繰り返し押して、レベルを選ぶ。

- 1：輪郭を強調する。
- 2：「1」よりも輪郭を強調する。
- 3：「2」よりも輪郭を強調する。
- ソフト：映像をソフトにする（DVD のみ）。

設定を解除するには

手順 2 で「切」を選びます。

コントロールバーを消すには

コントロールバーが消えるまで、画面表示ボタンを押します。

ご注意

ディスクや再生している場面によっては、ディスク上のノイズがより目立つことがあります。この場合は、BNR（50 ページ）も一緒にご使用になることをおすすめします。それでも改善されない場合は、デジタルビデオエンハンサーのレベルを下げるか、「ソフト」を選んでください（DVD のみ）。

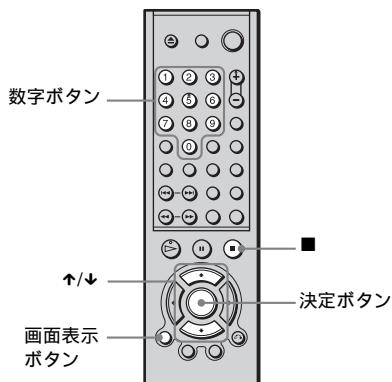
ディスクの再生を制限する（カスタム視聴制限、視聴制限）

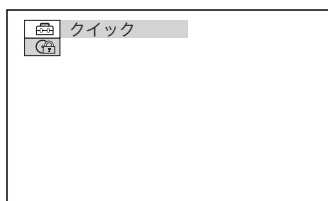
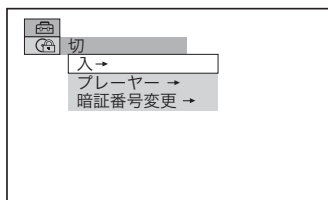
本機には、ディスクの再生を制限する次の2 種類の機能があります。
- カスタム視聴制限
  本機で特定のディスクを再生できないようにする。
- 視聴制限
  視聴制限つき DVD の再生できるシーンを制限する。制限されたシーンをカットしたり、別のシーンに差し替えて再生します。

カスタム視聴制限も視聴制限も、登録した同じ暗証番号を使って設定します。

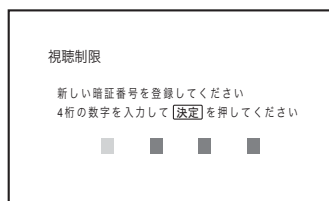
カスタム視聴制限―設定する

DVD VCD CD

登録した暗証番号を使って、40 枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。41 枚目のディスクを設定すると、1 番最初に設定したディスクの制限が解除されます。

1 設定したいディスクを入れる。
ディスクを再生しているときは、■ を押して再生を止めます。

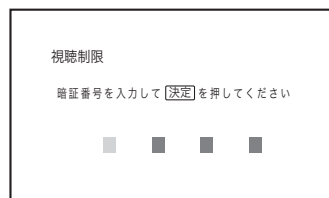
2 停止中に画面表示ボタンを押す。
画面に以下のコントロールバーが表示されます。

3 ↑/↓ で （視聴制限）を選び、決定ボタンを押す。
「視聴制限」の設定項目が表示されます。

4 ↑/↓ で「入 →」を選び、決定ボタンを押す。

◆ 暗証番号が登録されていないとき

暗証番号登録の画面が表示されます。

数字ボタンで 4 桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押します。
暗証番号確認の画面が出ます。

◆ 暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号入力の画面が出ます。

→ 次のページへつづく

5 **数字ボタンで 4 桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。**
「カスタム視聴制限を設定しました」と表示されます。

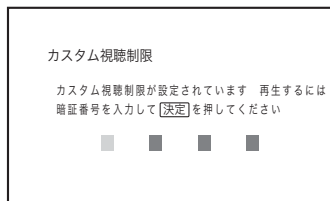
カスタム視聴制限を解除するには

1 「カスタム視聴制限—設定する」の手順 1 〜 3 を繰り返す。

2 ↑/↓ で「切 →」を選び、決定ボタンを押す。

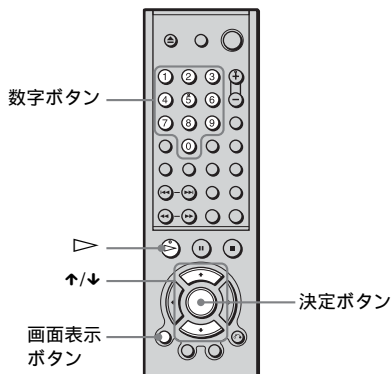
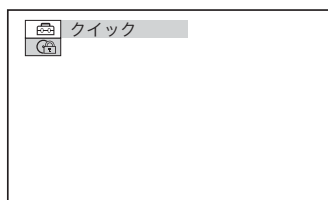
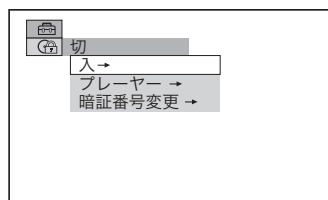
3 数字ボタンで 4 桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

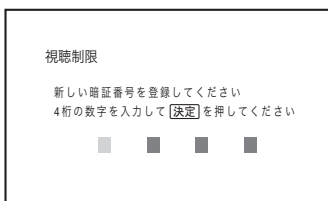
カスタム視聴制限—再生する

1 カスタム視聴制限が設定されたディスクを入れる。
「カスタム視聴制限」の画面が表示されます。

2 数字ボタンで 4 桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
再生できる状態になります。

ヒント
暗証番号を忘れてしまったときは、「カスタム視聴制限」画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6 桁の数字「199703」を数字ボタンで入力します。画面に、新しい 4 桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

視聴制限—設定する DVD

DVD には、地域ごとに設けられたレベル（見る人の年齢など）によって、シーンの視聴を制限できるものがあります。視聴制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。

1 **停止中に画面表示ボタンを押す。**
画面に以下のコントロールバーが表示されます。

2 **↑/↓ で （視聴制限）を選び、決定ボタンを押す。**
「視聴制限」の設定項目が表示されます。

3 **↑/↓ で「プレーヤー →」を選び、決定ボタンを押す。**

◆ **暗証番号が登録されていないとき**
暗証番号登録の画面が表示されます。

数字ボタンで 4 桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
暗証番号確認の画面が出ます。

◆ 暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号入力の画面が出ます。

4 数字ボタンで 4 桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

視聴制限のレベル設定変更の画面が表示されます。

5 ↑/↓ で「使用する地域」を選び、決定ボタンを押す。

「使用する地域」の選択項目が表示されます。

6 ↑/↓ で視聴制限レベルの基準にする地域を選び、決定ボタンを押す。

地域が選ばれます。
「その他 →」を選んだときは、56 ページの表から地域コードを選び、数字ボタンで入力します。

7 ↑/↓ で「レベル」を選び、決定ボタンを押す。

「レベル」の選択項目が表示されます。

8 ↑/↓ で制限するレベルを選び、決定ボタンを押す。

視聴年齢制限の設定が終了します。
レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

視聴制限を解除するときは

手順 8 で「レベル」を「切」にします。

視聴制限－再生する

1. ディスクを入れて、▷ を押す。
   視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。
2. 数字ボタンで 4 桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
   再生が始まります。

ヒント

登録した暗証番号を忘れてしまったときは、ディスクを取り出し、「視聴制限－設定する」の手順 1 ～ 3 にしたがって操作します。暗証番号を入力する案内が表示されたら、6 桁の数字「199703」を数字ボタンで入力して、決定ボタンを押します。画面に新しい 4 桁の暗証番号を登録する案内が表示されます。
新しい暗証番号を入力して、ディスクを本機に入れなおし、▷ を押します。暗証番号入力画面が表示されるので、新しい暗証番号を入力します。

→ 次のページへつづく

ご注意

視聴制限機能がない DVD は、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。

◆地域コード

使用する地域	コード番号	使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044	チリ	2090
イギリス	2184	デンマーク	2115
イタリア	2254	ドイツ	2109
インド	2248	日本	2276
インドネシア	2238	ニュージーランド	2390
オーストラリア	2047	ノルウェー	2379
オーストリア	2046	パキスタン	2427
オランダ	2376	フィリピン	2424
カナダ	2079	フィンランド	2165
韓国	2304	ブラジル	2070
シンガポール	2501	フランス	2174
スイス	2086	ベルギー	2057
スウェーデン	2499	ポルトガル	2436
スペイン	2149	マレーシア	2363
タイ	2528	メキシコ	2362
中国	2092	ロシア	2489

暗証番号を変更するには

1 停止中に画面表示ボタンを押す。
コントロールバーが表示されます。

2 ↑/↓ で （視聴制限）を選び、決定ボタンを押す。
「視聴制限」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ で「暗証番号変更 →」を選び、決定ボタンを押す。
暗証番号入力の画面が表示されます。

4 数字ボタンで 4 桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

5 数字ボタンで新しい 4 桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

6 確認のため、数字ボタンでもう一度暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

暗証番号を間違えたときは

決定ボタンを押す前に、← を押して入力しなおします。

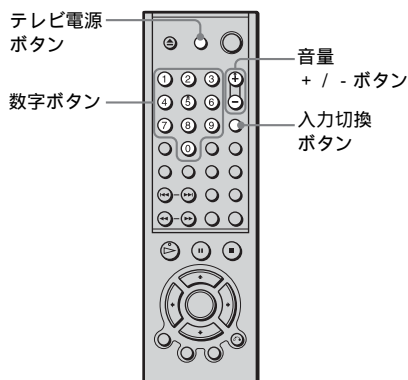
間違えたときは

リターンを押します。

画面表示を消すには

画面表示が消えるまで画面表示ボタンを押します。

付属のリモコンでテレビを操作する

リモコン信号をお手持ちのテレビのメーカーに合わせると、本機のリモコンでテレビの音量や電源などを操作できます。

1 リモコンのテレビ電源ボタンを押したまま、テレビのメーカー番号（2 桁）を数字ボタンで入力する。

2 入力した後、テレビ電源ボタンをはなす。

メーカー番号

メーカー番号が 2 つ以上あるときは、順に試してテレビが操作できる番号をお選びください。

テレビのメーカー	メーカー番号
ソニー	01（お買い上げ時の設定）、12
アイワ	17
NEC	09
三星電子（SAMSUNG）	18
三洋電機	07
シャープ	08
東芝	03
日本ビクター	06
日立製作所	04
フナイ	14
松下電器	02、13
三菱電機	05

以下のボタンを使ってテレビの操作ができるようになります。

押すボタン	できること
テレビ電源	テレビの電源を入 / 切する。
音量＋ / －	テレビの音量を調整する。
入力切換	テレビの入力を切り換える。

ご注意

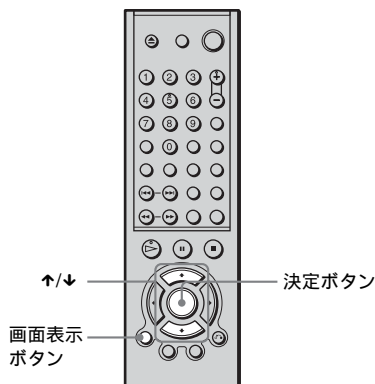
- テレビによってはメーカー番号を合わせても操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。
- メーカー番号を入力すると、それまでのメーカー番号は消えます。
- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が自動的にお買い上げ時の設定に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう一度入力し直してください。

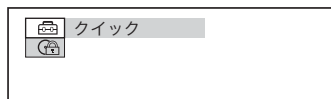
設定と調整

設定画面を使う

設定画面を使って、画質や音声などさまざまな設定ができます。また、DVD の字幕の言語やメニューの表示言語の設定などもできます。各項目について詳しくは、59 ～ 63 ページをご覧ください。

ご注意

あらかじめ再生条件がディスクに設定されているものがあります。その場合はディスクの情報が有効になります。

1 停止中に画面表示ボタンを押す。

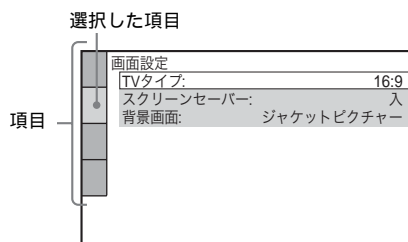
画面に以下のコントロールバーが表示されます。

2 ↑/↓ で （設定）を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓ で「カスタム」を選び、決定ボタンを押す。

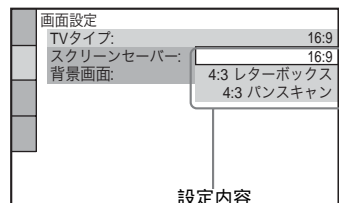
設定画面が表示されます。

4 ↑/↓ で「言語設定」「画面設定」「視聴設定」「オーディオ設定」の中から、設定したい項目を選び、決定ボタンを押す。

選択した項目の画面が表示されます。

例）「画面設定」

5 ↑/↓ でさらに設定項目を選び、決定ボタンを押す。

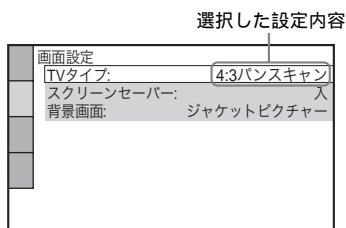
設定項目の内容が一覧表示されます。

例）「TV タイプ」の設定内容

6 ↑/↓ で設定内容を選び、決定ボタンを押す。

設定内容が選ばれ、設定が終了します。

例）「4：３パンスキャン」

選択した設定内容

画面設定
TVタイプ: 4:3パンスキャン
スクリーンセーバー: 入
背景画面: ジャケットピクチャー

画面表示を消すには

画面表示が消えるまで画面表示ボタンを押します。

クイック設定をするには

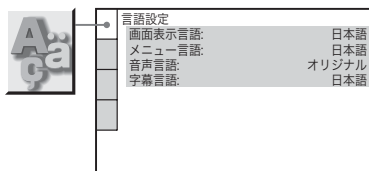
手順 3 で「クイック」を選んで、決定ボタンを押すとクイック設定ができます。「手順 4：クイック設定をする」（27 ページ）の手順 5 以降にしたがって、設定していきます。

お買い上げ時の設定に戻すには

手順 3 で「リセット」を選ぶと、すべての設定画面項目をお買い上げ時の設定に戻すことができます。
「リセット」を選び、決定ボタンを押したあと、「はい」を選び、決定ボタンを押します。すべての設定をリセットするまで数秒かかります。
「いいえ」を選び、決定ボタンを押すとコントロールバーに戻ります。
リセット中はリモコンの電源ボタンや本体の I/⏻（電源）ボタンを押して、電源を切らないでください。

表示言語や音声言語の設定（言語設定）

画面や音声の言語を設定します。

設定画面で「言語設定」を選びます（「設定画面を使う」58 ページ）。

◆画面表示言語

画面の表示言語を切り換えます。

◆メニュー言語（DVD のみ）

ディスクのメニューの言語を切り換えます。

◆音声言語（DVD のみ）

音声の言語を切り換えます。
「オリジナル」を選ぶと、ディスク内で優先されている言語が選ばれます。

◆字幕言語（DVD のみ）

字幕の言語を切り換えます。
「音声連動」を選ぶと、音声の言語に合わせて字幕の言語が切り換わります。

ヒント

「メニュー言語」「音声言語」「字幕言語」で「その他 →」を選んだときは、言語コード一覧表（71 ページ）から言語コードを選び入力してください。数字ボタンで言語コードを入力します。

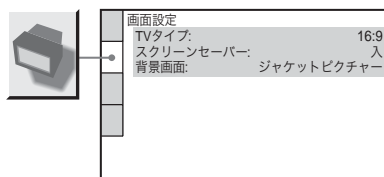
ご注意

「メニュー言語」「音声言語」「字幕言語」で選んだ言語がディスクに記録されていないときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます。

画像に関する設定

(画面設定)

接続するテレビに合わせて設定します。

設定画面で「画面設定」を選びます(「設定画面を使う」58 ページ)。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

◆ TV タイプ

接続するテレビの画面の種類(ワイドテレビまたは従来の 4：3 画面テレビ)を設定します。

16:9	ワイドテレビまたは、ワイドモードのあるテレビとつなぐとき
4:3 レターボックス	4:3 画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は横長のまま表示し、画面の上下は黒く表示する
4:3 パンスキャン	4:3 画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は映像の左右を自動的にカットしてテレビ画面全体に表示する

16:9

4:3 レターボックス

4:3 パンスキャン

ご注意

DVD によっては「4:3 レターボックス」あるいは「4:3 バンスキャン」に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

◆スクリーンセーバー

一時停止または停止したままで 15 分経つか、CD やデータ CD(MP3 音声)を 15 分以上再生すると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。画像の焼き付き(残像現象)を防ぐのに役立ちます。▷ を押すと、スクリーンセーバー画面は消えます。

入	スクリーンセーバーを使う
切	スクリーンセーバーを使わない

◆背景画面

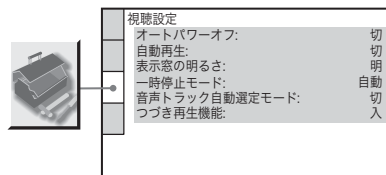
停止中や CD/ データ CD 再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。

ジャケットピクチャー	ディスク(CD-EXTRA など)にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー(静止画像)を表示する。ディスクにジャケットピクチャーが記録されていないときは、「グラフィックス」の画像が表示される
グラフィックス	あらかじめ本機に記録されている静止画像を表示する
青	背景色を「青」にする
黒	背景色を「黒」にする

視聴に関する設定

（視聴設定）

再生するときの視聴に関する設定を再生などの条件に合わせて設定します。

設定画面で「視聴設定」を選びます（「設定画面を使う」58 ページ）。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

◆オートパワーオフ

オートパワーオフの設定をします。

切	オートパワーオフ機能を使わない
入	ディスクを再生していないときに 30 分以上本体またはリモコンを操作をしないと、自動的にスタンバイモード（待機状態）になる

◆自動再生

電源が入ったときの動作を設定します。本機をタイマー（別売り）と接続したときに設定すると便利です。

切	自動再生しない
入	電源が入ったとき、自動で再生を始める

◆表示窓の明るさ

本体の表示窓の明るさを調整します。

明	明るくする
暗	暗くする
消	表示を消す

◆一時停止モード（DVD のみ）

一時停止にしたときの画像のモードを設定します。

自動	大きく動きのある被写体のある画像がぶれずに見られる。通常はこの設定にする
フレーム	動きの少ない被写体の画像が高い解像度で見られる

◆音声トラック自動選定モード（DVD のみ）

複数の音声記録方式が記録されている DVD を再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、DTS、ドルビーデジタル）を優先して再生することができます。

切	優先しない
入	優先する

ご注意

- この設定を「入」にすると、言語が切り換わることがあります。これは「音声トラック自動選定モード」の設定が「言語設定」の「音声言語」（59 ページ）より優先されるためです。
- 「DTS」の設定を「切」（63 ページ）にした場合、この設定を「入」にしても DTS 音声は再生されません。
- PCM、DTS、ドルビーデジタルのチャンネル数が同じ場合、PCM、DTS、ドルビーデジタルの順で優先されます。

◆つづき再生機能（DVD、ビデオ CD のみ）

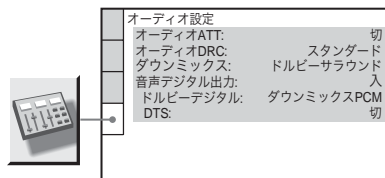
つづき再生を設定します。設定すると 6 枚のディスクまでつづき再生を本機に記録することができます（33 ページ）。

入	6 枚のディスクまでつづき再生を記録する（「切」に設定しても、記録は消去されません）
切	つづき再生を記録しない。本機にディスクを入れたままのときのみ、つづき再生します

音声に関する設定

（オーディオ設定）

再生するときの音の設定を、再生や接続などの条件に合わせて設定します。

設定画面で「オーディオ設定」を選びます（「設定画面を使う」58 ページ）。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

◆オーディオ ATT（attenuation）

本機の音声出力レベルを低くして、音が歪まないようにします。
この機能は、次の端子からの出力に効果があります。
- LINE OUT AUDIO L/R（1、2）端子

切	通常はこの設定にする
入	スピーカーからの音が歪むときなどにこの設定を選ぶ

◆オーディオ DRC（Dynamic Range Control）（DVD のみ）

DVD の音量を下げて聞くときに、小さい音までよく聞こえるようにします。オーディオ DRC に対応の DVD にのみ効果があります。
この機能は、次の端子からの出力に効果があります。
- LINE OUT AUDIO L/R（1、2）端子
-「ドルビーデジタル」を「ダウンミックス PCM」に設定したときの DIGITAL OUT OPTICAL および COAXIAL 端子（62 ページ）

スタンダード	通常はこの設定にする
テレビ	小さい音までよく聞こえるようにする
ワイドレンジ	迫力のある音になる

◆ダウンミックス（DVD のみ）

リアスピーカーの音声成分（チャンネル）を含むドルビーデジタルまたは DTS 方式で記録されている DVD を 2 チャンネルに変換して再生するとき、この設定を切り換えます。リア音声成分（チャンネル）について詳しくは「再生中の音声記録方式を表示する」（46 ページ）をご覧ください。
この設定は、次の端子からの出力に効果があります。
- LINE OUT AUDIO L/R（1、2）端子
-「ドルビーデジタル」を「ダウンミックス PCM」に設定したときの DIGITAL OUT OPTICAL および COAXIAL 端子（63 ページ）

ドルビーサラウンド	ドルビーサラウンド（プロロジック）対応のオーディオ機器を接続しているときに選ぶ
ノーマル	ドルビーサラウンド（プロロジック）に対応していないオーディオ機器を接続したときに選ぶ

◆音声デジタル出力

DIGITAL OUT OPTICAL および COAXIAL 端子から音声信号を出力するかしないかを選びます。

入	通常はこの設定にする。この設定を選んだら、「音声デジタル出力の信号を設定する」を設定する
切	デジタル回路がアナログ回路に与える影響を最小限に抑えられる

音声デジタル出力の信号を設定する

DIGITAL OUT OPTICAL または COAXIAL 端子に、デジタル入力端子のある AV アンプや MD デッキなどの機器をつないだときの、音声信号の出力方式を設定します。
接続について詳しくは、22 ページをご覧ください。
「音声デジタル出力」で「入」を選んでから、「ドルビーデジタル」および「DTS」を設定してください。

設定した音声信号の出力方式に対応していない機器を接続していると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがあります。

◆ドルビーデジタル（DVD のみ）

ドルビーデジタル信号のデジタル出力方式を選びます。

ダウンミックス PCM	ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器を接続しているときに選ぶ。出力される信号のサラウンド効果の有無は「オーディオ設定」の「ダウンミックス」の設定によって決まる（62 ページ）
ドルビーデジタル	ドルビーデジタルデコーダー内蔵のオーディオ機器を接続しているときに選ぶ

◆DTS（DVD のみ）

DTS 信号をデジタル出力するかしないかを選びます。

切	DTS デコーダーを内蔵していないオーディオ機器を接続したときに選ぶ
入	DTS デコーダー内蔵のオーディオ機器を接続しているときに選ぶ

ご注意

DVD 再生時に TVS を設定すると、「オーディオ設定」で「ドルビーデジタル」を「ダウンミックス PCM」にしている場合（62 ページ）DIGITAL OUT OPTICAL または COAXIAL 端子から音声信号は出力されません。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう 1 度点検してください。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンターまたはお客様ご相談センター、ソニーサービス窓口、お買い上げ店にお問い合わせください。

電源

電源が入らない。

➡ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

映像

映像が出ない、乱れる。

➡ 接続コードのプラグをしっかり差しなおす。
➡ 接続コードが断線している。
➡ テレビの接続を確認し（20 ページ）、テレビの入力を本機の映像が映るように切り換える。
➡ ディスクに汚れや傷がある。
➡ 本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビに接続したり、ビデオ一体型テレビに接続していると、一部の DVD プログラムに使用されているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。
本機をテレビに直接接続していても画質に問題が生じる場合は、テレビの S 映像入力端子へ接続してみる（20 ページ）。

設定画面の「画面設定」の「TV タイプ」で設定した画像の形で再生できない。

➡ 画像の形が固定されているディスクを再生している。

音声

音が出ない。

➡ 接続コードのプラグをしっかり差しなおす。
➡ 接続コードが断線している。
➡ アンプの入力端子を間違えている（26 ページ）、（24 ページ）、（25 ページ）。
➡ アンプの入力切換で本機の音声が出るようにしていない。
➡ 一時停止、スロー再生になっている。
➡ 早送りまたは早戻しになっている。
➡ DIGITAL OUT OPTICAL および COAXIAL 端子から音が出ないときは設定画面を確認する（63 ページ）。

大きなノイズが出る。

➡ CD の DTS 音声を再生すると、LINE OUT AUDIO L/R（1、2）端子からノイズが出ます（30 ページ）。

音がひずむ。

➡ 設定画面の「オーディオ設定」の「オーディオ ATT」を「入」にする（62 ページ）。

音が小さい。

➡ DVD によっては、再生時の音量が小さい場合がある。「オーディオ DRC」を「テレビ」に設定（62 ページ）すると、改善されることがある。
➡ 設定画面の「オーディオ設定」の「オーディオ ATT」を「切」にする（62 ページ）。

操作

リモコンで操作できない。

➡ リモコンと本体との間に障害物がある。
➡ リモコンと本体との距離が離れている。
➡ 本体のリモコン受光部に向けて操作していない。
➡ リモコンの電池が消耗している。

再生が始まらない。

➡ ディスクが裏返しに入っている。
再生面を下にする。
➡ ディスクが斜めにずれて入っている。
➡ 再生できないディスクを入れている
（9 ページ）。
➡ 本機で再生できない地域番号のDVDを入れている（9 ページ）。
➡ 結露している（3 ページ）。
➡ ファイナライズされていないDVD-RやDVD-RW（ビデオモード）、CD-R、CD-RW を再生しようとしている（9 ページ）。

MP3 を再生できない。

➡ 次のような音声を再生している（36 ページ）。
ーISO9660 レベル 1、レベル 2、Joliet に準拠していない MP3 音声
ーMP3PRO で記録された音声
ー拡張子が「.MP3」以外の MP3 音声
ー拡張子は「.MP3」だが、MP3 形式以外のデータ
ーMPEG 1 Audio Layer 3 以外の音声

アルバム / トラック名が正しく表示されない。

➡ 本機で表示できる文字はアルファベットと数字のみ。それ以外の文字は「＊」で表示される。

再生がディスクの最初から始まらない。

➡ プログラムまたはシャッフル、リピート、A-B リピート再生になっている
（38 ページ）。
➡ つづき再生（リジューム再生）になっている（33、61 ページ）。

再生が自動的に始まる。

➡ 自動的に再生が始まるディスクを入れている。
➡ 設定画面の「視聴設定」の「自動再生」で「入」を選んでいる（61 ページ）。

再生が自動的に止まる。

➡ オートポーズ信号が記録されているディスクを再生すると、オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まる。

ストップ、スキャン、スロー、リピート再生、シャッフル再生、プログラム再生などの操作ができない。

➡ 操作を禁止しているディスクを再生している。ディスクに付属の説明書もあわせて見る。

音声言語を変更できない。

➡ リモコンのボタンで直接操作する代わりに、DVD メニューから操作する。
➡ 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。
➡ 音声言語の切り換えを禁止しているDVD を再生している。

字幕を変更できない、または消すことができない。

➡ リモコンのボタンで直接操作する代わりに、DVD メニューから操作する。
➡ 再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない。
➡ 字幕の変更又は消す事を禁止しているDVD を再生している。

アングルを変更して見ることができない。

➡ リモコンのボタンで直接操作する代わりに、DVD メニューから操作する。
➡ 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない。
➡ 表示窓のアングル表示（🎥）が点灯していない場面で、アングルを切り換えている（12 ページ）。
➡ アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。

正常に動作しない。

➡ 静電気などの影響で正常に動作しなくなったときは、本体電源を抜く。

その他

➡ 次のページへつづく

表示窓に何も表示されない。

➡ 設定画面の「視聴設定」の「表示窓の明るさ」を「消」にしている。「明」または「暗」にする（61 ページ）。

画面および表示窓に 5 桁のアルファベットと数字が表示されている。

➡ 自己診断機能が働いている。66 ページの表にしたがって対応する。

ディスクトレイが開かず、表示窓に「LOCKED」と表示される。

➡ チャイルドロックが設定されている（31 ページ）。

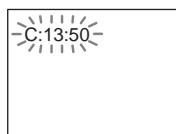
ディスクトレイが開かず、表示窓に「TRAY LOCKED」と表示される。

➡ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

データ CD を再生中、テレビ画面に「データエラー」と表示される。

➡ MP3 音声のトラックが壊れてる。
➡ MPEG 1 Audio Layer 3 以外の音声を再生している。

自己診断機能について（アルファベットで始まる表示が出たら）

本機の異常を未然に防ぐため、自己診断機能が働くと、画面および表示窓にアルファベットと数字で 5 桁のサービス番号（例：C 13 50）が表示されます。その際は次のように対応してください。

サービス番号の最初の 3 桁	原因と対応
C 13	ディスクが汚れています ➡ 柔らかい布でディスクを拭きます（10 ページ）
C 31	ディスクが正しく入っていません ➡ ディスクを正しく入れ直します
E XX （XX は任意の数）	異常を未然に防ぐため自己診断機能が働きました ➡ お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。その際はサービス番号の 5 桁すべてをお知らせください 例：E 61 10

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

アフターサービス

◆調子が悪いときはまずチェックとご相談を

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。
症状が改善されないときは、テクニカルインフォメーションセンター（お買い上げ日より 1 年間）へご相談ください。詳しくは、添付の「テクニカルインフォメーションセンターのご案内」をご覧ください。
また、お客様ご相談センターでもお問い合わせを受け付けています。連絡先は添付の「ソニーご相談窓口のご案内」または裏表紙をご覧ください。

◆保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

◆保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

◆部品の保有期間について

当社では、CD/DVD プレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後 8 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。
お手数をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

- 型名：DVP-NS515
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 再生していたディスクのタイトル名：
- 再生していたディスクの種類（DVD ビデオ、DVD-RW、DVD-R など）：
- つないでいるテレビやアンプのメーカーと型名：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

今後とも、ソニー製品をご愛用くださいますようお願い申し上げます。

用語解説

インデックス（CD）/ ビデオインデックス（ビデオ CD）（12 ページ）
再生したい部分を見つけやすいように、1つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたもの。インデックスが記録されていないディスクもある。

シーン（12 ページ）
PBC（プレイバックコントロール）対応のビデオ CD で、メニュー画面や動画、静止画の区切りのこと。

タイトル（12 ページ）
DVD に記録されている映像や曲のいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画 1 作品、音楽ソフトではアルバム 1 枚（または 1 曲）にあたる。

チャプター（11 ページ）
DVD に記録されている映像や曲の区切りで、タイトルよりも小さい単位。1 つのタイトルはいくつかのチャプターで構成される。チャプターが記録されていないディスクもある。

トラック（11 ページ）
ビデオ CD、CD に記録されている映像や曲の区切り（1 曲分）。

ドルビーサラウンド（プロロジック）（26、62 ページ）
ドルビーラボラトリーズ社がサラウンド音声のために開発した音声信号の処理技術。入力信号にサラウンド信号があるとき、プロロジック処理をして、フロント、センター、リアに信号を出力する。リアチャンネルはモノラルになる。

ドルビーデジタル（26、63 ページ）
ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1 チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を 5.1 チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

D 映像信号（20 ページ）
D 端子付きデジタルテレビと 1 本のケーブルで簡単にコンポーネント映像信号を接続できるため、より高画質な画像となる。D 端子には対応する信号フォーマットによって D1、D2、D3、D4 端子があり、本機はどの端子とでもつなげることができます。
- D1 端子：525i（480i）の信号
- D2 端子：525i（480i）と 525p（480p）の信号
- D3 端子：525i（480i）と 525p（480p）、1125i（1080i）の信号
- D4 端子：525i（480i）と 525p（480p）と 1125i（1080i）と 750p（720p）の信号

* i はインターレース、p はプログレッシブの略。カッコ内の数字は有効走査線数で数えたときの別称。

DTS（26、63 ページ）
デジタルシアターシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1 チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を 5.1 チャンネルで楽しむことができる。
全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

DVD（9 ページ）

CD と同じ直径で最大 8 時間までの動画が記録できるディスク。
片面 1 層で 4.7GB（Giga Byte）と CD の 7 倍の情報が記録でき、片面 2 層で 8.5GB、両面 1 層では 9.4GB、両面 2 層では 17GB が記録できる。
画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2」を採用し、映像データを約 1/40（平均）に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報は PCM の他、ドルビーデジタルを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめる。
またマルチアングル、マルチランゲージ、視聴年齢制限などさまざまな付加機能も用意され、より高度な楽しみかたができる。

主な仕様

システム

形式：CD/DVD プレーヤー
信号方式：JEITA 標準、NTSC カラー方式

音声特性

周波数特性：DVD VIDEO（PCM 96 kHz 再生時）：2 Hz ～ 44 kHz（± 1.0dB）* ／ DVD VIDEO（PCM 48 kHz 再生時）：2 Hz ～ 22 kHz（± 0.5dB）* ／ CD：2 Hz ～ 20 kHz（± 0.5 dB）*
信号対雑音比（S/N 比）：115 dB*（LINE OUT AUDIO L/R (1、2) 端子のみ）
全高調波ひずみ率：0.003 %*
ダイナミックレンジ：DVD VIDEO：103 dB ／ CD：99 dB*
ワウ・フラッター：測定限界（± 0.001% W PEAK）以下 *

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。
96 kHz PCM 音声の測定は LINE OUT AUDIO L/R（1、2）端子を使用。96 kHz PCM 音声は、DIGITAL OUT 端子から 48 kHz に変換されて出力されます。

出力端子

（**端子名：**端子形状／出力レベル／負荷インピーダンス）
DIGITAL OUT OPTICAL：光出力コネクター／－ 18 dBm（発光波長 660 nm）
DIGITAL OUT COAXIAL：ピンジャック／ 0.5 V_{P-P} ／ 75 Ω
LINE OUT AUDIO L/R (1、2)：ピンジャック／ 2 Vrms（50 kΩ）／ 10 kΩ
LINE OUT VIDEO (1、2)：ピンジャック／ 1.0 V_{P-P} ／ 75 Ω
S1 VIDEO OUT：4 ピンミニ DIN ／輝度信号：1.0 V_{P-P}、色信号：0.286 V_{P-P} ／ 75 Ω
D1 VIDEO OUT：D 端子／ Y: 1.0 V_{P-P}、C_B、C_R：0.7 V_{P-P} ／ 75 Ω

電源、その他

電源：AC 100V、50/60 Hz
消費電力：11 W
最大外形寸法：430 × 62 × 255 mm（幅 / 高さ / 奥行き）
質量：約 2.3 kg
許容動作温度：5 ～ 35 ℃
許容動作湿度：25 ～ 80 %

付属品

17 ページをご覧ください。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

言語コード一覧表

詳しくは 46、49、59 ページをご覧ください。

言語名表記は ISO639:1988（E/F）に準拠

コード	言語
1027	Afar
1028	Abkhazian
1032	Afrikaans
1039	Amharic
1044	Arabic
1045	Assamese
1051	Aymara
1052	Azerbaijani
1053	Bashkir
1057	Byelorussian
1059	Bulgarian
1060	Bihari
1061	Bislama
1066	Bengali; Bangla
1067	Tibetan
1070	Breton
1079	Catalan
1093	Corsican
1097	Czech
1103	Welsh
1105	Danish
1109	German
1130	Bhutani
1142	Greek
1144	English
1145	Esperanto
1149	Spanish
1150	Estonian
1151	Basque
1157	Persian
1165	Finnish
1166	Fiji
1171	Faroese
1174	French
1181	Frisian
1183	Irish
1186	Scots Gaelic
1194	Galician
1196	Guarani
1203	Gujarati
1209	Hausa
1217	Hindi
1226	Croatian
1229	Hungarian
1233	Armenian
1235	Interlingua
1239	Interlingue
1245	Inupiak
1248	Indonesian
1253	Icelandic
1254	Italian
1257	Hebrew
1261	Japanese
1269	Yiddish
1283	Javanese
1287	Georgian
1297	Kazakh
1298	Greenlandic
1299	Cambodian
1300	Kannada
1301	Korean
1305	Kashmiri
1307	Kurdish
1311	Kirghiz
1313	Latin
1326	Lingala
1327	Laothian
1332	Lithuanian
1334	Latvian; Lettish
1345	Malagasy
1347	Maori
1349	Macedonian
1350	Malayalam
1352	Mongolian
1353	Moldavian
1356	Marathi
1357	Malay
1358	Maltese
1363	Burmese
1365	Nauru
1369	Nepali
1376	Dutch
1379	Norwegian
1393	Occitan
1403	(Afan)Oromo
1408	Oriya
1417	Punjabi
1428	Polish
1435	Pashto; Pushto
1436	Portuguese
1463	Quechua
1481	Rhaeto-Romance
1482	Kirundi
1483	Romanian
1489	Russian
1491	Kinyarwanda
1495	Sanskrit
1498	Sindhi
1501	Sangho
1502	Serbo-Croatian
1503	Singhalese
1505	Slovak
1506	Slovenian
1507	Samoan
1508	Shona
1509	Somali
1511	Albanian
1512	Serbian
1513	Siswati
1514	Sesotho
1515	Sundanese
1516	Swedish
1517	Swahili
1521	Tamil
1525	Telugu
1527	Tajik
1528	Thai
1529	Tigrinya
1531	Turkmen
1532	Tagalog
1534	Setswana
1535	Tonga
1538	Turkish
1539	Tsonga
1540	Tatar
1543	Twi
1557	Ukrainian
1564	Urdu
1572	Uzbek
1581	Vietnamese
1587	Volapük
1613	Wolof
1632	Xhosa
1665	Yoruba
1684	Chinese
1697	Zulu
1703	無指定

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット / 数字順

保証期間中の接続・操作・故障に関するお問い合わせは
テクニカルインフォメーションセンターへ

フリーダイヤル	0120−37−8154 （携帯電話・PHSからはご利用になれません）
受け付け時間	午前9時～午後5時 （年末、年始、土日、祝日を除く毎日）

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

- ナビダイヤル………………… 0570-00-3311
  （全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）
- 携帯電話・PHSでのご利用は…… 03-5448-3311
- Fax ……………………………………… 0466-31-2595

受付時間：
月～金
9:00～20:00
土・日・祝日
9:00～17:00

http://www.sony.co.jp/

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed In Malaysia